授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
くらしと憲法	講義	2	選択	必修	必修	2年・前期	髙　野　俊太郎
科目コード　ＨｇＡＡＡ10003							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	講義において触れる各種法律は、社会人として、最低限知っておくべきものが大半である。 将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを検討している者はもちろん、そうでない受講者も、今後社会で活動するにあたって、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	日本国憲法は、自由権・平等権等の人権規定を定めて、国民に当然保障されるべき権利・自由を高らかに宣言するとともに、それを脅かす国家権力の濫用が行われないような統治機構の仕組みについて規定している。 本講義では、主に国民に保障されている自由権・平等権・社会権等の人権規定につき概説する。その際、憲法違反を争って裁判となった事例・憲法が日常生活に関係する事例等を挙げて、その問題点を学生自身が探求することで、憲法の理念とその重要性につき理解を深めることを目的とする。 また、憲法以外にも、生活を送る上で必要となる法的知識について、具体的事例をあげて紹介、解説を行う。
到達目標	①　法学全般・憲法学の基本的な考え方を理解させる。 ②　法律全般に対する理解を深め、今後の社会生活の一助とさせる。
授業の進め方	毎回必要なレジュメを配付の上、講義形式で授業を進める。

第　1　回	法全般と憲法の概念について
【学修内容】	法全般と憲法の基本的な考え方を理解するとともに裁判手続全般に対する理解を深める。
【事前学修】	シラバスに目を通しておく。（２時間）
【事後学修】	配付したレジュメ等を復習する。（２時間）
第　2　回	基本的人権総論（人権を保障される者の範囲）
【学修内容】	人権享有主体性（特に外国人の人権）について理解するとともに、裁判員裁判の内容を理解する。
【事前学修】	前回のレジュメを確認し、憲法の考え方を確認しておく。（２時間）
【事後学修】	配付したレジュメ等を復習する。（２時間）
第　3　回	基本的人権総論（人権保障の限界）
【学修内容】	公共の福祉概念に関する理解を行うとともに、債務整理制度について理解する。
【事前学修】	前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間）
【事後学修】	今回配付したレジュメを確認する。（２時間）
第　4　回	二重の基準と法の下の平等
【学修内容】	違憲判断の際の基本的考え方と平等原則について理解し、家事事件の基本を学ぶ。
【事前学修】	前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間）
【事後学修】	今回配付したレジュメを確認する。（２時間）
第　5　回	精神的自由権全般といわゆるDVに対する法的な対応
【学修内容】	自由権と社会権の区別と精神的自由権の重要性について理解する。
【事前学修】	前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間）
【事後学修】	今回配付したレジュメを確認する。（２時間）
第　6　回	報道の自由及び取材の自由と他の利益との調整
【学修内容】	報道の自由等の重要性について理解するとともに、いわゆるセクハラとその法的対応を理解する。
【事前学修】	前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間）
【事後学修】	今回配付したレジュメを確認する。（２時間）

授　業　計　画	第　7　回　　憲法に規定のない新しい人権（プライバシー権、名誉権）の保障とストーカー対策 【学修内容】　憲法に規定のない人権が保障される理由やその法的構成を理解する。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第　8　回　　信教の自由と交通事故対応 【学修内容】　信教の自由の重要性とその制度的保障である政教分離原則を理解する。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第　9　回　　経済的自由権と規制目的二分論、悪徳商法 【学修内容】　経済的自由権とその制約根拠について理解するともに、悪徳商法への法的な対応を理解する。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 10 回　　財産権及び国家に対し国民が請求できる権利と労働問題全般 【学修内容】　財産権の構造等について理解するとともに、労働問題についての理解を深める。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 11 回　　社会権全般と労働問題全般 【学修内容】　自由権と社会権の区別を行い、社会権全般を理解し、労働問題の理解をさらに深める。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 12 回　　教育を受ける権利と民事裁判の基本 【学修内容】　教育を受ける権利の特殊性を理解し、民事裁判の基本的なルールを学ぶ。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 13 回　　労働者特有の権利及び子育てとその法的支援 【学修内容】　いわゆる労働三権を理解し、日本における出産・育児への法的支援制度について学ぶ。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 14 回　　国民の権利・自由を守るための統治機構の仕組み（三権分立） 【学修内容】　国家権力の仕組みを理解し、それがどのように国民の権利を守っているかを理解する。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間） 第 15 回　　憲法の重要性についての総括等 【学修内容】　これまでに行った講義の内容を総復習し、憲法全体の理解を深める。 【事前学修】　前回までに配付したレジュメを復習する。（２時間） 【事後学修】　今回配付したレジュメを確認する。（２時間）
評　価　方　法	筆記試験（100%）
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。
備　　考	実務経験のある教員：検察庁、法律事務所における検事、弁護士の実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
手話	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	若浜 ひろ子 土居 有希子
科目コード　HgaaB10005							担当形態：複数

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育関係の業務に限らず、広く活用できるよう、楽しみながら積極的に受講すること。
授業の目的・概要	聴覚障がい者の言語である「手話」の基本を学ぶ。 外見では分かりにくい聴覚障がいについての理解を深めながら、実際に聴覚障がい者と接した時に、適切な対応ができ、かつ積極的にコミュニケーションできるように指導する。 聴覚障がい者のコミュニケーション手段の一つである手話という言語を基礎から学び、初歩的な会話ができるように指導する。また、聴覚障がい者が社会生活を送る上での様々なバリアについて考察し、理解をする。
到達目標	①　聴覚障がい者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を修得する。 ②　手話について学び、実践を通して簡単な日常会話ができる。 ③　聴覚障がい者の社会生活を理解できる。
授業の進め方	授業に必要な資料は、プリントを配付して理解を深め、授業は実技と講義で進める。

第 1 回	ガイダンス「授業の目的、注意事項について」 聴覚障がいの基礎知識Ⅰ「聴覚障がい者・コミュニケーションについて」、伝えあってみましょう「身振りでつたえる」
【学修内容】	聴覚障害について理解し、コミュニケーション方法を学ぶ。
【事前学修】	耳が聞こえない不便さを考える。（2時間）
【事後学修】	形、大きさを正確に身振りで表現し手を動かすことに慣れる。（2時間）
第 2 回	手話の基礎知識（1）「手話について」、自己紹介をしましょう①「挨拶・自己紹介・指文字」
【学修内容】	手話は言語であることを理解し、挨拶、名前、指文字の手話表現を学ぶ
【事前学修】	聴覚障がいの基礎知識のプリントを読み理解を深める。（2時間）
【事後学修】	学んだ手話の練習する。（2時間）
第 3 回	自己紹介をしましょう②「家族を紹介する」
【学修内容】	家族に関する手話を学ぶ
【事前学修】	挨拶、名前、指文字を覚えて表現する。（2時間）
【事後学修】	家族に関する手話表現を練習する。（2時間）
第 4 回	聴覚障がいの基礎知識Ⅱ①「DVD鑑賞・聴覚障がい者の生活を考える」　②「福祉制度について」
【学修内容】	DVDを視聴、聴覚障害者の生活、様々な福祉制度を知り知識を深める。
【事前学修】	第２回から覚えた手話の練習、手の形、動き、位置を正確に表現する。（2時間）
【事後学修】	今まで覚えた手話表現を練習する。（2時間）
第 5 回	聴覚障がいの基礎知識Ⅲ「聴覚障がい者の生活について～講師の体験～」 自己紹介をしましょう③「趣味について話す」
【学修内容】	実体験を聞き聴覚障害者の生活やその背景を考察し知る。趣味の手話表現を学ぶ
【事前学修】	第２回～４回までの手話表現を復習し手話で会話できるように練習する。　（2時間）
【事後学修】	趣味の手話表現の復習。会話文の表現も練習し手の動きに慣れる。　（2時間）
第 6 回	自己紹介をしましょう④「数字を使って話す」
【学修内容】	数字の手話を学ぶ
【事前学修】	今まで覚えた手話表現を練習する。（2時間）
【事後学修】	数字の手話と例文の復習する。（2時間）
第 7 回	聴覚障がいの基礎知識Ⅳ「聴覚障がい者の労働について」、自己紹介をしましょう⑤「仕事について話す」
【学修内容】	聴覚障害者の労働やその背景を知る。仕事に関わる手話を学ぶ。
【事前学修】	今まで覚えた手話表現を練習する。（2時間）
【事後学修】	自己紹介の復習と例文の練習する。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　自己紹介をしましょう⑥「住所を紹介する」 【学修内容】　地名の手話を学ぶ 【事前学修】　今まで覚えた手話表現を練習する。（2時間） 【事後学修】　自己紹介の復習と例文の練習する。（2時間） 第 9 回　聴覚障がいの基礎知識Ⅴ「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 自己紹介をしましょう⑦「復習・自己紹介のまとめ」 【学修内容】　耳の仕組み、聞こえの仕組みを知り聴覚障害の知識を深める。自己紹介のまとめ 【事前学修】　今まで学習した手話単語・表現の工夫を確実に身につける。（2時間） 【事後学修】　自己紹介の復習と例文の練習する。（2時間） 第 10 回　話し合ってみましょう①「1日・１カ月に関する手話」 【学修内容】　時に関する手話を学ぶ 【事前学修】　今まで覚えた手話表現を練習する。（2時間） 【事後学修】　時に関する手話の復習と例文の練習。（2時間） 第 11 回　手話の基礎知識（２）「ろう教育について」、話し合ってみましょう②「１年に関する手話」 【学修内容】　聾学校の経過と現状の問題などを理解する。１年に関する手話を学ぶ 【事前学修】　時の表し方を身につけ、身近な生活や日常生活の体験を話題に会話練習する。（2時間） 【事後学修】　質問をして答える会話の練習の中で疑問詞がしっかり使えるようにする。（2時間） 第 12 回　話し合ってみましょう③「今まで学習した疑問詞を使って会話」 【学修内容】　疑問詞の使い方を学ぶ。会話文 【事前学修】　今まで学習した疑問詞を使って会話の練習をする。（2時間） 【事後学修】　疑問詞の使い方の復習と例文の練習する。（2時間） 第 13 回　話し合ってみましょう④「会話の演習Ⅰ」まとめ 【学修内容】　表情を豊かに、空間を上手に使うことを学ぶ 【事前学修】　今までの学習した疑問詞を使っていろいろな会話ができるように練習する。（2時間） 【事後学修】　まとめの例文を復習し、指文字、手話表現の練習する。（2時間） 第 14 回　話し合ってみましょう⑤「会話の演習Ⅱ」（保育園での会話練習） 【学修内容】　日本語の文章にこだわらず、表情豊かに工夫し表現することを学ぶ 【事前学修】　今までの学習した疑問詞を使っていろいろな会話ができるように練習する。（2時間） 【事後学修】　今までの理論講義のプリントの復習し、指文字、手話表現の復習。（2時間） 第 15 回　読み取り・手話表現のまとめ「会話の演習Ⅲ」（会話の模擬場面） 【学修内容】　日本語の文章にこだわらず、表情豊かに工夫し表現することを学ぶ 【事前学修】　今までの学習した疑問詞を使っていろいろな会話ができるように練習する。（2時間） 【事後学修】　今まで学習した手話単語・表現の工夫を確実に身につける。（2時間）
評　価　方　法	試験：実技・筆記（80%） 平常点：レポート提出、小テスト（読み取り）、受講態度（20%）
教　　科　　書	さっぽろの手話（公益社団法人札幌聴覚障害者協会）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	わたしたちの手話学習辞典Ⅰ（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局） わたしたちの手話学習辞典Ⅱ（一般財団法人全日本ろうあ連盟出版局）
備　　考	全国手話検定４・５級

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
芸術鑑賞・教養講座Ⅱ	演習	1	必修			2年・通年	保育科教員　ほか
科目コード　HGZZB10008							担当形態：オムニバス

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	卒業要件の科目であり、必ず履修し、単位を修得しなければならない。 本学キャンパスで行われる特別授業・講演や学外での芸術鑑賞・特別講座等を含むため各自開講日時を確認して受講すること。
授業の目的・概要	美術や音楽等の芸術を鑑賞し知性や感性を磨く。また、社会で求められるマナーや知識を身に付け、常識や教養を高める。 芸術鑑賞　（美術館やコンサートホール等で実際に鑑賞する。） 教養講座　（時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講する。） 特別授業　（外部講師による特別に開講される授業を受講する。） マナー講座（社会で求められているマナーに関する授業を受講する。）
到達目標	①　美術や音楽等の芸術を鑑賞し、知性や感性を磨き、豊かな教養を身に付ける。 ②　社会で求められているマナーや知識を身に付け、女性としての常識や教養を身に付ける。
授業の進め方	各回のテーマに添った講演・講座の受講、美術・音楽等の鑑賞をする。 レポート・ワークシートを作成する。
授業計画	第 1 回　オリエンテーション 【学修内容】　授業概要の説明、レポートの書き方 【事前学修】　シラバスに目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　レポートの書き方を復習する。（0.5時間） 第 2 回～第14回　芸術鑑賞、教養講座、特別授業、マナー講座等 【学修内容】　実際に美術館やコンサートホールに赴き、美術や音楽等の芸術鑑賞を行い知性や感性を磨く。時代の流れに即した内容をテーマにした講演会を受講し、教養を身につける。外部講師による特別に開講される授業を受講し、見識を深める。社会で求められているマナーに関する授業を受講し、社会人としての知識や技術を身に付ける。 ※具体的な内容については、その都度授業前に公示する。 【事前学修】　公示されたテーマについて文献やインターネット等を活用し調べる。（授業1回につき0.5時間） 【事後学修】　学修内容について振り返り、感想や興味を持った事柄について考察しレポート等にまとめる。（授業1回につき0.5時間） 第15 回　まとめ 【学修内容】　本科目で学んだことを振り返る。 【事前学修】　これまでの授業を振り返る。（0.5時間） 【事後学修】　学修内容、感想等をレポートにまとめる。（0.5時間）
評価方法	レポート等（50%）、平常点（50%）平素の受講態度等を加味する。
教科書	使用しない。
参考書 参考資料等	適宜紹介する。
備考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
英語Ⅲ	演習	2	選択	選択	選択	2年・前期	盛 合 直 人
科目コード　HgaaB20013							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	英語Ⅰ、英語Ⅱの単位を修得した者に限る。
授業の目的・概要	Simple conversation and communication skills （ speaking, listening, reading and writing） will be developed in a group environment using practical travel situations. Portfolio should be submitted every time and Quizzes will be given regularly. （英語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法表現をおさらいし、旅行英会話に挑戦する。） （毎時間ポートフォリオの提出と定期的に会話表現の確認を行う。）
到達目標	Students will be able to perform a variety of oral communicative tasks. （様々な場面における英語力向上を目指す。）
授業の進め方	プリント等を使用しながら授業を進める。 レベルや到達度、修得状況に応じて進めていく。 発表・レポート提出など適宜実施する。
	第 1 回　Talking about travel experiences 【学修内容】　旅の経験や思い出を述べる 【事前学修】　自分の旅の思い出をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　自分の発表だけでなく他者の発表を聴き表現について理解を深める。（2時間） 第 2 回　At airport immigration and customs 【学修内容】　空港の入国と税関 【事前学修】　海外旅行の際の入港や税関でのやり取りを事前に調べておく。（2時間） 【事後学修】　スキットを確認し会話内容の理解を深める。（2時間） 第 3 回　Asking and following directions 【学修内容】　道順を尋ねたり、説明したりする 【事前学修】　道順の説明方法や位置関係に関する表現を確認しておく。（2時間） 【事後学修】　理解しやすい説明や表現を復習する。（2時間） 第 4 回　Making reservations 【学修内容】　ホテルやレストラン飛行機などの予約をする 【事前学修】　予約に関する表現を事前に調べておく。（2時間） 【事後学修】　スキットを確認し会話内容の理解を深める。（2時間） 第 5 回　At restaurant 1（order, recomendations） 【学修内容】　レストランでの注文など 【事前学修】　レストランでの注文の仕方や、お勧めを尋ねる表現を調べておく。（2時間） 【事後学修】　店員とのやり取りや、注文の仕方を理解する。（2時間） 第 6 回　At restaurant 2（menue, trouble and payment） 【学修内容】　料理とメニュー、トラブルや会計など 【事前学修】　レストランで想定されるトラブルや支払い方法を調べておく。（2時間） 【事後学修】　スキットを通してトラブルの対処や支払いでの表現を確認する。（2時間） 第 7 回　Making skit and rollplay　1 【学修内容】　スキットを作成しロールプレイする 1 【事前学修】　自分で場面を想定しスキットを準備しておく。（2時間） 【事後学修】　それぞれのスキットの要点を理解する。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　Shopping 1（find out items and to try on clothes） 【学修内容】　商品を探す、試着する 【事前学修】　洋品店の店員とのやり取りを事前に考察しておく。（2時間） 【事後学修】　サイズ・色・形・好みの表現を復習する。（2時間） 第 9 回　Shopping 2（discount negotiation or bargaining / trouble and customer service） 【学修内容】　値引き交渉と割引 / トラブルとお客様相談窓口 【事前学修】　値引きの依頼表現について事前に調べておく。（2時間） 【事後学修】　様々な値引き表現やトラブル相談の表現を理解する。（2時間） 第10 回　Making skit and rollplay　2 【学修内容】　スキットを作成しロールプレイする 2 【事前学修】　自分で場面を想定しスキットを準備しておく。（2時間） 【事後学修】　それぞれのスキットの要点を理解する。（2時間） 第 11 回　At hospital　（receiving medical examination） 【学修内容】　病院での診察や病状を伝える 【事前学修】　症状を伝える表現を調べておく。（2時間） 【事後学修】　スキットを確認し会話内容の理解を深める。（2時間） 第12 回　At pharmacy and drugstore 【学修内容】　薬局とドラッグストア 【事前学修】　病院からの指示や処方箋などの表現を調べておく。（2時間） 【事後学修】　スキットを確認し会話内容の理解を深める。（2時間） 第13 回　Making travel plan 【学修内容】　旅行の計画を立てる 【事前学修】　自分の旅の計画案を考えておく。（2時間） 【事後学修】　順序だてて表現する方法や表現の理解を深める。（2時間） 第14 回　Presentation 【学修内容】　旅行の計画を発表する 【事前学修】　計画案の精査をしておく。（2時間） 【事後学修】　自分の発表だけでなく他者の発表を聴き、表現について理解を深める。（2時間） 第15 回　Review 【学修内容】　まとめ 【事前学修】　既習事項について確認しておく。（2時間） 【事後学修】　既習事項を振り返り様々な表現について復習する。（2時間）
評　価　方　法	Grading will be based on participation attendance, group presentation and examination. ポートフォリオ（30%）、レポート（25%）、授業の取り組み・発表（45%）を総合的に評価する。
教　科　書	使用しない。
参　考　書 参考資料等	“Talk a Lot” by David Martin（EFL Press） English conversation for beginners by Kuwahara kenji（Natsume Press）
備　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
教育原理	講義	2	選択	必修	必修	2年・後期	布見道子
科目コード　HgAAA10102							担当形態：単独

教育の基礎的理解に関する科目	科目に含める必要事項
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 教育史及び社会的・制度的・経営的事項を踏まえ、教育の基本姿勢を身に付けること。
授業の目的・概要	本講義は、保育所、幼稚園、認定こども園の指導者を目指す者に必要な教育学全般の知識を教授し、あわせて教育者に求められる資質を育成することを目的とする。 ① 教育の基本とその意義を学ぶ。 ② 教育が社会で必要な理由について学ぶ。 ③ 教育が人間の成長と発達に果たす役割を学ぶ。 ④ 教育は目的や場面に応じ多様であることを学ぶ。 ⑤ 教員は歴史や社会の変化の中で変容することを学ぶ。
到達目標	① 教育の基本及び意義を理解する。 ② 社会で教育が果たす役割について理解する。 ③ 人間の成長と発達には教育が必要であることを理解する。 ④ 目的や場面に応じて多様な教育活動が必要であることを理解する。 ⑤ 歴史や社会の変化の中で教育が果たす役割について理解する。
授業の進め方	各回でテーマを設定し、それに沿って授業を行う。授業中は、積極的にメモをとる等、意欲的な取り組みの姿勢が求められる。テーマに沿った小レポートを完成させ、授業の内容を身に付ける。

第 1 回　オリエンテーション・教育とは何か
【学修内容】　教育の基本原理と教育学の諸概念について学ぶ
【事前学修】　人間と他の動物の違いについて調べ、なぜ人間には教育が必要なのか考える。（２時間）
【事後学修】　教育の基本原理や教育学の諸概念について復習する。（２時間）

第 2 回　なぜ教育が必要か
【学修内容】　教育の本質及び目的と意義、歴史を学ぶ
【事前学修】　なぜ学校が必要なのか考える 。（２時間）
【事後学修】　教育の本質及び目的と意義、歴史について復習する。（２時間）

第 3 回　学校のはじまりと学校制度
【学修内容】　教育機関としての学校について学ぶ
【事前学修】　近世の教育機関について調べる。（２時間）
【事後学修】　教育機関としての学校についてどのような役割があったか復習する。（２時間）

第 4 回　教師の役割と研修
【学修内容】　子どもの成長に果たす教師の役割と資質の向上について学ぶ
【事前学修】　教師の役割について、自分の考えをまとめる 。（２時間）
【事後学修】　子どもの成長に果たす教師の役割と資質の向上について復習する。（２時間）

第 5 回　教育課程と学力（１）
【学修内容】　教育課程の目的及び学力の向上について学ぶ（１）
【事前学修】　教育課程の役割について予習する。（2時間）
【事後学修】　教育課程の目的及び学力の向上について復習する。（2時間）

第 6 回　教育課程と学力（２）
【学修内容】　教育課程の目的及び学力の向上について学ぶ（２）
【事前学修】　カリキュラム・マネジメントの充実（第一章第1の4 ）を読む。（2時間）
【事後学修】　カリキュラム・マネジメントの意義と必要性について復習する。（2時間）

授　業　計　画	第　７　回　　家庭や地域の役割 【学修内容】　家庭や地域の役割及び生涯教育について学ぶ 【事前学修】　自分が経験してきた地域・家庭との連携活動について調べる。（２時間） 【事後学修】　子どもの成長と発達に果たす家庭・地域の役割について復習する。（２時間） 第　８　回　　日本の学校制度と諸外国の学校制度 【学修内容】　日本や諸外国の学校制度について学ぶ 【事前学修】　諸外国の学校制度について調べる。（２時間） 【事後学修】　日本や諸外国の学校制度について復習をする。（２時間） 第　９　回　　現代の教育課題（いじめ、不登校） 【学修内容】　現代の教育課題からいじめ、不登校について学ぶ 【事前学修】　いじめや不登校についての現状を調べる。（２時間） 【事後学修】　いじめが生じないような学級づくりで大切なことをまとめる。（２時間） 第 10 回　　現代の教育課題（体罰、虐待、犯罪等） 【学修内容】　現代の教育課題から体罰、虐待、犯罪等について学ぶ 【事前学修】　現代の教育課題から体罰、虐待、犯罪のうち一つを調べる。（２時間） 【事後学修】　体罰、虐待、犯罪等について、現状と課題について復習する 。（２時間） 第 11 回　　子どもの発達と教育 【学修内容】　子どもの発達を踏まえた教育的諸課題について学ぶ 【事前学修】　幼児期における教育的諸課題について調べる。（２時間） 【事後学修】　子どもの発達を踏まえた教育的諸課題について復習をする。（２時間） 第 12 回　　学校の危機管理と法規 【学修内容】　学校の管理運営と服務、法規等について学ぶ 【事前学修】　教職員の服務について調べる 。（２時間） 【事後学修】　学校の管理運営と服務、法規等について復習をする。（２時間） 第 13 回　　子どもの権利 【学修内容】　子どもの人権を守る世界の動きについて学ぶ 【事前学修】　子どもの権利条約について調べる。（２時間） 【事後学修】　子どもの人権を守る世界の動きについて、復習をする。（２時間） 第 14 回　　特別支援教育 【学修内容】　特別支援教育及び障がいについての基礎を学ぶ 【事前学修】　さまざまな人間の障がいについて調べる。（２時間） 【事後学修】　特別支援教育と障がいについて復習をする。（２時間） 第 15 回　　新しい教育課題について 【学修内容】　学習指導要領から、現代の新しい教育課題について学ぶ 【事前学修】　現在の新しい教育課題について調べる。（２時間） 【事後学修】　学習指導要領から、現代の新しい教育課題について復習をする。（２時間）
評　価　方　法	受講姿勢（関心・意欲・態度）（３０％）、課題取組（意欲・知識・向上心）（５０％）、小テスト（知識・向上心）（２０％）の事項を総合して評価する。
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	小学校学習指導要領解説総則編（文部科学省　東洋館出版社）
備　　考	各自で参考となる書籍を用意することが望ましい。 実務経験のある教員：札幌市内等の公立学校等における教育に関する実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
子ども家庭支援論	講義	2	選択	必修		2年・前期	大森 和代
科目コード　HgAZA10105							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	子どもの主たる生活環境は家庭である。子どもの安定的な養育環境を整えるために、保育士や幼稚園教諭、保育教諭は子どもに対する支援だけでなく保護者への支援にも目を向ける必要がある。 保育士や幼稚園教諭、保育教諭として対人援助サービスの仕事に関わる人たちには、目の前にいる支援の対象者を尊重する姿勢を持って話に耳を傾け受容すること、専門的な援助関係に基づいて生活上の困りごとを解決していくパートナーとなることが求められる。 この授業は、ソーシャルワークを念頭におきながら、講義及び演習により理解を深めることを目的とする。 ① 子ども家庭支援の意義と役割 ② 保育士による子ども家庭支援の意義と基本 ③ 子育て家庭に対する支援の体制 ④ 多様な支援の展開と関係機関との連携
到達目標	① 子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ② 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③ 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④ 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
授業の進め方	テキストとプリントを基本とする。プリントは各自保管し授業の際には持参すること。 必要に応じて映像資料を用いる。

第 1 回	子ども家庭支援の意義と役割Ⅰ
【学修内容】	子ども家庭支援の意義と役割・必要性
【事前学修】	教科書第1講「子ども家庭支援の意義」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 2 回	子ども家庭支援の意義と役割Ⅱ
【学修内容】	子ども家庭支援の目的と機能
【事前学修】	教科書第2講「子ども家庭支援の機能・目的」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 3 回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅰ
【学修内容】	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
【事前学修】	教科書第5講に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 4 回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅱ
【学修内容】	子どもの育ちの喜びの共有
【事前学修】	教科書第6講に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 5 回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅲ
【学修内容】	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援
【事前学修】	教科書第7講に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 6 回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅳ
【学修内容】	保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等）
【事前学修】	教科書第8講に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
第 7 回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅴ
【学修内容】	家庭の状況に応じた支援
【事前学修】	教科書第9講に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　保育士による子ども家庭支援の意義と基本Ⅵ 【学修内容】　地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 【事前学修】　教科書第10講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 9 回　子育て家庭に対する支援の体制Ⅰ 【学修内容】　子育て家庭の福祉を図るための社会資源 【事前学修】　教科書第4講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 10 回　子育て家庭に対する支援の体制Ⅱ 【学修内容】　子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 【事前学修】　教科書第3講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 11 回　多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅰ 【学修内容】　子ども家庭支援の内容と対象 【事前学修】　教科書第11講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 12 回　多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅱ 【学修内容】　保育所等を利用する子どもの家庭への支援 【事前学修】　教科書第12講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 13 回　多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅲ 【学修内容】　地域の子育て家庭への支援 【事前学修】　教科書第13講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 14 回　多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅳ 【学修内容】　要保護児童等及びその家庭に対する支援 【事前学修】　教科書第14講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間） 第 15 回　多様な支援の展開と関係機関との連携Ⅴ 【学修内容】　子ども家庭支援に関する現状と課題 【事前学修】　教科書第15講に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習しプリント（空白欄）に全て記入済みか確認し、整理しておく。（2時間）
評　価　方　法	筆記試験70%、平常点30%（提出物、受講態度等を加味する。）
教　　科　　書	子ども家庭支援論　第2版（松原康雄・村田典子・南野奈津子編集、中央法規）
参　考　書 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館）
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育者論	講義	2	選択	必修	必修	2年・後期	中村章子 加藤貴子
科目コード　HgAAA10107							担当形態：オムニバス

教育の基礎的理解に関する科目	科目に含める必要事項
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	保育は、一人ひとりの子どもの人生のスタートに寄り添い、子どものよりよい成長発達を促す営みである。近年の子どもを取り巻く環境の変化に伴い、保育施設や保育者に求められる役割は多様化し、高い専門性を求められている。このことから保育者の専門性や仕事内容を学ぶとともに、子どもの育ちを支える自らの成長について自覚を高める。
到達目標	①　保育に従事することの意義や保育者の役割・仕事内容について理解し、実践への意欲をもつ。 ②　保育者として成長することへの自覚をもち、実践への意欲をもつ。 ③　内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。
授業の進め方	授業計画に沿い、視聴覚機器や板書、プリント等を活用し、グループワーク等を取り入れて進める。

第　1　回　講義のガイダンス　保育者とは　（担当：中村）
【学修内容】　保育の意味・概念を理解した上で、保育者の果たすべき役割を自分なりに考える。
【事前学修】　『保育者論』の第1章を読んでおく。（２時間）
【事後学修】　他者の考えに触れ、保育者の果たす役割を幅広く捉える。（２時間）

第　2　回　保育者と保育の本質　（担当：中村）
【学修内容】　子ども観、保育観の変遷を学んだ上で、現在の保育・教育が目指すものを理解する。
【事前学修】　『保育者論』の第2章を読んでおく。（２時間）
【事後学修】　幼稚園、認定こども園、保育所の目的を幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を読んでまとめる。（２時間）

第　3　回　保育者と保育の本質　（担当：中村）
【学修内容】　保育者の果たす役割を学んだ上で、自分自身の理想の保育者像を描く。
【事前学修】　『保育者論』の第3章を読んでおく。（２時間）
【事後学修】　理想の保育者像をマインドマップに描き表す。（２時間）

第　4　回　保育者と保育の本質②　（担当：中村）
【学修内容】　理想の保育者像を発表交流することを通して、保育者としての将来像を明確にする。
【事前学修】　理想の保育者像をマインドマップに書き表し、発表の準備をする。（２時間）
【事後学修】　他者の考えも取り入れ、理想の保育者像を再確認する。（２時間）

第　5　回　保育者の歴史　（担当：中村）
【学修内容】　諸外国、日本の保育の歴史について学び、現在の日本の保育とのつながりを理解する。
【事前学修】　『保育者論』の第4章を読んでおく。（２時間）
【事後学修】　興味をもった保育者についてさらに調べ、理解を深める。（２時間）

第　6　回　保育者の資質　（担当：中村）
【学修内容】　子ども理解、環境の構成の在り方、人的環境としての保育者について理解する。
【事前学修】　『保育者論』の第5章を読んでおく。（２時間）
【事後学修】　環境を通しての保育・教育について図に表す。（２時間）

第　7　回　保育者の資質②　（担当：加藤）
【学修内容】　環境を通しての保育・教育について発表する。
【事前学修】　環境を通しての保育・教育について図に表し、発表の準備をする。（２時間）
【事後学修】　他者の考えも取り入れ、環境を通しての保育・教育について理解を深める。（２時間）

授　業　計　画	第　8　回	保育者の専門性	（担当：加藤）
	【学修内容】	保育者としての倫理、個々の特性の理解、生活や遊びを通しての総合的な指導について理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第6章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	保育者としての倫理の中で、自分は何に重点を置くか考える。（２時間）	
	第　9　回	保育者の業務	（担当：加藤）
	【学修内容】	実習時の幼稚園、保育所、認定こども園、児童福祉施設の1日の流れを振り返り、保育者としての業務を理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第8章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	授業内で扱った内容からいずれかの施設の1日の流れと保育者としての業務を書き出す。（２時間）	
	第 10 回	保育者のマナー	（担当：加藤）
	【学修内容】	保育者としての身だしなみ、挨拶と言葉遣い、行動の在り方について学ぶ。	
	【事前学修】	『保育者論』の第9章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	保育者としての言葉遣いの演習に取り組む。（２時間）	
	第 11 回	現代における望ましい保育者像	（担当：加藤）
	【学修内容】	現在求められる多岐にわたる保育者の役割について理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第10章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	保育者になるべく自分のコンピテンシーチェックシートを付け、自己分析する。（２時間）	
	第 12 回	保育者の研修・服務	（担当：加藤）
	【学修内容】	保育者になった際の研修の必要性や仕組みや服務について理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第11章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	服務に関する演習に取り組む。（２時間）	
	第 13 回	保育者と環境作り	（担当：加藤）
	【学修内容】	遊びが生まれる環境の構成について理解を深め、構想する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第12章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	遊びが生まれる環境の構成について構想し、図に表す。（２時間）	
	第 14 回	保育者の協働	（担当：加藤）
	【学修内容】	保護者との協働、地域との協働、小学校との協働、専門機関との協働について理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第13章、第14章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	自分が取り組みたい協働について考える。（２時間）	
	第 15 回	保育者と法令	（担当：加藤）
	【学修内容】	保育者として知っておくべき法令について理解する。	
	【事前学修】	『保育者論』の第15章を読んでおく。（２時間）	
	【事後学修】	保育者論全体を通して学んだことのまとめを行う。（２時間）	

評　価　方　法	毎回の演習点（100%）
教　　科　　書	コンパクト版保育者養成シリーズ『保育者論』（谷田貝公昭編著、一藝社　）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
子ども家庭支援の心理学	講義	2	選択	必修		2年・後期	磯　部　ゆかり
科目コード　HgAZA10202							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	子育て家庭への支援に関して総合的な力を養うため、ここでは、生涯発達と初期経験の重要性等について理解し、子どもの精神保健とその課題、家庭の意義と機能・子育て家庭を取り巻く社会状況等について学び、子どもの発達や学びの過程、生涯発達など、保育や子育て支援に関する内容を包括的に修得することを目的とする。 ① 生涯発達 ② 家族・家庭の理解 ③ 子育て家庭に関する現状と課題 ④ 子どもの精神保健とその課題
到達目標	① 生涯発達に関する心理学の基本的な知識を学ぶとともに、初期体験の重要性、発達課題等について理解する。 ② 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を学習する。 ③ 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④ 子ども精神保健とその課題について理解する。
授業の進め方	テキストを基本に進めていく。 プリントは必要に応じて配付する。 映像教材を通して理解を深める。

	第 1 回　オリエンテーション 【学修内容】　初期体験の重要性と発達課題 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 2 回　生涯発達Ⅰ 【学修内容】　乳児期から学童期にかけての発達 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 3 回　生涯発達Ⅱ 【学修内容】　学童期後期から青年期にかけての発達 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 4 回　生涯発達Ⅲ 【学修内容】　成人期・老年期における発達 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 5 回　家庭・家族の理解Ⅰ 【学修内容】　家庭・家族の意義と機能 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 6 回　家庭・家族の理解Ⅱ 【学修内容】　親子関係・家族関係の理解 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 7 回　家庭・家族の理解Ⅲ 【学修内容】　子育ての経験と親としての育ち 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　子育て家庭に関する現状と課題Ⅰ 【学修内容】　子育てを取り巻く社会的状況 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 9 回　子育て家庭に関する現状と課題Ⅱ 【学修内容】　ライフコースと仕事・子育て 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 10 回　子育て家庭に関する現状と課題Ⅲ 【学修内容】　多様な家庭とその理解 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 11 回　特別なニーズを持つ家庭と援助Ⅰ 【学修内容】　育てにくさ、障害、DV 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 12 回　特別なニーズを持つ家庭と援助Ⅱ 【学修内容】　ひとり親、里親、異文化家族 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 13 回　子どもの精神保健とその課題Ⅰ 【学修内容】　乳児期、幼児期、児童期、青年期 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 14 回　子どもの精神保健とその課題Ⅱ 【学修内容】　子どもの心の健康に関わる問題 【事前学修】　テキストで予習し質問事項をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　出された復習課題について小レポートを作成する。（2時間） 第 15 回　まとめ 【学修内容】　復習 【事前学修】　前回までの学修内容に目を通し不明点・疑問点をあきらかにしておく。（2時間） 【事後学修】　総合的な復習を行い期末試験に備える。（2時間）
評　価　方　法	試験60%　課題提出等20%　受講状況等20%
教　科　書	子ども家庭支援の心理学演習ブック　松本峰雄監修（ミネルヴァ書房） 保育福祉小六法（株式会社みらい）
参　考　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省編、フレーベル館）
備　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
幼児理解と援助	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	木 村 彰 子
科目コード　HgAAB10203							担当形態：単独

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項
	幼児理解の理論及び方法

受講する上での注意事項	テキストをそのまま使うのではなく、その内容の一部を詳しく解説するため、事前にしっかり読んでくること。また、ビデオを視聴して考えたり、グループワークを行ったりするので、保育の仕事を目指すものとして、積極的な気持ちで受講すること。
授業の目的・概要	①　幼児理解は、保育・幼児教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。 ②　講義は具体的に５つの内容で構成される。（１）子どもの発達を支援する方法と実践（２）関係の発達と支援 （３）家庭での発達と支援（４）集団での発達と支援（５）非典型的発達と支援 ③　幼保小連携を重視し、小学校教育との関連についての内容を、豊富に取り入れる。
到達目標	１　幼児理解の意義と原理 ①幼児理解の意義を理解している。②幼児理解から発達や学びを捉える原理を理解する。③幼児理解を深めるための保育者の基礎的な態度を理解している。 ２　幼児理解の方法 ①観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。②個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。③幼児のつまづきを周りの幼児との関係やその他の背景から理解している。④保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。⑤小学校教育との連携を理解している。
授業の進め方	講義の中で、教科書を使用し、幼児理解や心理学の基本について学ぶ。 グループワーク等を取り入れて、実践につながる知識を身に付ける。

	第 1 回	子どもの発達を支援する方法と実践Ⅰ（子どもの実態に応じた発達や学びの把握）
	【学修内容】	子どもの行為を通して子どもごころを感じる
	【事前学修】	実習で出会った、「子どもって面白い」と感じた姿を思い出しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 2 回	子どもの発達を支援する方法と実践Ⅱ（子どもの実態に応じた発達や学びの把握）
	【学修内容】	保育における子どもへのまなざし
	【事前学修】	教科書第１章－２「子どもを見る『まなざし』」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 3 回	子どもの発達を支援する方法と実践Ⅲ（子どもの実態に応じた発達や学びの把握）
	【学修内容】	保育における子ども理解とは
	【事前学修】	教科書第1章－１「保育のはじまりとしての『子ども理解』」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 4 回	現代家族と発達の支援Ⅰ（子どもを理解する視点）
	【学修内容】	子どもを取り巻く環境の理解
	【事前学修】	教科書第2章「子どもを取り巻く環境の理解」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 5 回	現代家族と発達の支援Ⅱ（子どもを理解する視点）
	【学修内容】	子ども理解における発達的視点
	【事前学修】	教科書第3章「子ども理解における発達的観点」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 6 回	集団での発達と支援Ⅰ（子どもを理解する方法）
	【学修内容】	関係論的発達観
	【事前学修】	再度、教科書第3章「子ども理解における発達的観点」の頁を読み、前回の内容を振り返っておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
	第 7 回	集団での発達と支援Ⅱ（子どもを理解する方法）
	【学修内容】	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド
	【事前学修】	教科書第４章「子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）

授　業　計　画	第　8　回　　集団での発達と支援Ⅲ（子どもを理解する方法） 【学修内容】　葛藤やつまずき 【事前学修】　保育実習で体験した「子どもの葛藤」をまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第　9　回　　集団での発達と支援Ⅳ（子どもを理解する方法） 【学修内容】　保育における観察 【事前学修】　教科書第５章１「保育における観察とは」２「保育の場で子どもを『見る』とは」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 10 回　　集団での発達と支援Ⅴ（子どもを理解する方法） 【学修内容】　保育における記録 【事前学修】　教科書第5章３「保育における記録とは」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 11 回　　集団での発達と支援Ⅵ（子どもを理解する方法） 【学修内容】　保育カンファレンス 【事前学修】　教科書第6章「保育カンファレンス」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 12 回　　集団での発達と支援Ⅶ（子どもを理解する方法） 【学修内容】　保育における個と集団の関係への理解と援助 【事前学修】　教科書第７章「保育における個と集団の関係への理解と援助」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 13 回　　非典型的発達と支援Ⅰ（子どもの理解に基づく発達援助） 【学修内容】　特別なニーズのある子どもの理解と援助 【事前学修】　教科書第8章「特別なニーズのある子どもの理解と援助」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 14 回　　非典型的発達と支援Ⅱ（子どもの理解に基づく発達援助） 【学修内容】　特別なニーズのある子どもから学ぶ集団の在りよう 【事前学修】　教科書第7章－３「個と集団の育ちを保障する保育デザイン」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 15 回　　非典型的発達と支援Ⅲ（子どもの理解に基づく発達援助） 【学修内容】　子ども理解を深めるための保育共同体 【事前学修】　教科書第１０章「子ども理解を深めるための保育共同体」の頁を中心に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を整理し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
評　価　方　法	提出課題（50%）コメントシート（30%）、受講姿勢（20%）、
教　　科　　書	新しい保育講座３　子ども理解と援助（高嶋景子・砂上史編著・ミネルヴァ書房）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領解説（文部科学省　フレーベル館） 保育所保育指針解説（厚生労働省　フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府　文部科学省　厚生労働省　フレーベル館）
備　　考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：幼稚園における幼児教育とスクールカウンセラーの実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
幼児と環境	講義	1	選択		必修	2年・後期	礒島 年成
科目コード　HgZAA10304							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	領域に関する専門的事項（環境）

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。これまでの講義を基盤に環境に関して保育者としての取り組み方について自分の考えをもてること。
授業の目的・概要	幼児を取り巻く環境、幼児と環境との関わりについてその根拠となる理論や概念をおさえ「幼児と環境」の面から幼児の身近な自然物や素材を用いた飼育・栽培、製作、遊びの活動等を実際に行い、体験的に学ぶ。
到達目標	領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付けることを目標とする。 ・幼児を取り巻く環境 ・幼児の身近な環境との関わりにおける思考・科学的概念の発達 ・幼児の身近な環境との関わりにおける標識・文字等、情報・施設との関わりの発達
授業の進め方	領域の「環境」に焦点をあて、子どもの活動の栽培、製作の方法の事例を取り上げたり、環境・活動の構成の仕方を考えたり、保育者としての実践的な視点から授業を進める。 授業中適宜資料を配付する。
授業計画	第１回　領域「環境」のねらいや位置づけについて理論や概念をおさえる。 【学修内容】　領域「環境」についてねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 【事前学修】　幼稚園教育要領の「総則」「ねらい及び内容『環境』」について事前に読んで予習しておく。（1時間） 【事後学修】　第１回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（1時間） 第２回　領域「環境」の視点から見た保育内容の可能性を考える。 【学修内容】　内容の取扱いから活動の計画について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第２回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第２回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間） 第３回　幼児期の身近な動植物の生態やその栽培・飼育活動の実際を考える。 【学修内容】　領域「環境」内容（５）の動植物の活動について計画することを学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第３回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第３回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間） 第４回　自然物や身近な素材を用いた製作活動の実際を考える。 【学修内容】　領域「環境」内容（７）の身近なものの製作活動について計画することを学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第４回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第４回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間） 第５回　身近な地域環境から「環境」に関する学びの可能性を考える。 【学修内容】　領域「環境」内容（10）の標識・文字について計画することを学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第５回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第５回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間） 第６回　実際の地域での活動から「環境」に関する学びに関する情報を収集する。 【学修内容】　実際に施設を見学することを通して標識・文字の伝え方を学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第６回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第６回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間） 第７回　実際の地域での活動で得た情報をまとめ、表現・交流する。 【学修内容】　領域「環境」内容（11）の標識・文字について計画することを学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第７回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第７回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間）

	第８回　　領域「環境」の視点から保育内容を整理する。 【学修内容】　領域「環境」の内容を整理し活動の計画について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第８回の講義資料を読んで予習しておく。（2時間） 【事後学修】　第８回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（2時間）
評　価　方　法	講義に関するレポート（20%）、各講義の課題と振り返り（80%）
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（文部科学省編、フレーベル館） 保育所保育指針解説（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府、文部科学省、厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校等における実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
幼児と言葉	講義	1	選択		必修	2年・前期	安　藤　理恵子
科目コード　HgZAA10305							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	領域に関する専門的事項（言葉）

受講する上での注意事項	主体的に課題意識をもって授業に参加し、学習した内容を具体的な子どもの姿や保育の内容に関連付けて考えられるようにすること。
授業の目的・概要	乳幼児の言語発達の基礎的な知識を視聴覚教材等も用いながら学び、また言葉遊びや児童文化財などを通じて、幼児の言葉を育む保育実践について具体的な知識が得られるようにする。
到達目標	領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 ・言葉のもつ意義と機能 ・言葉に対する感覚を豊かにする実践 ・言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財
授業の進め方	教科書を中心に、各時間の到達目標にそって授業を進めていく。主体的に授業に参加できる場面を設ける。授業終了後、その時間の要点がつかめるよう、まとめの小テストを行う。
授業計画	第 1 回　言葉の意義と機能 【学修内容】　人間にとって言葉はどのような意義・機能があるか学ぶ。 【事前学修】　教科書第1章1を読み、内容を大まかにつかんでおく。（1時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（1時間） 第 2 回　乳幼児の言葉の発達・言葉の機能 【学修内容】　乳幼児の言葉の発達過程とその発達課題について学ぶ。 【事前学修】　教科書第1章2を読み、言語発達の段階を大まかにつかんでおく。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間） 第 3 回　言葉の楽しさ美しさ 【学修内容】　具体的な言葉の楽しさや美しさを味わう実践、保育者の関わりについて学ぶ。 【事前学修】　教科書第3章を読み、言葉の楽しさ美しさについてを自分なりのイメージをもつ。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間） 第 4 回　言葉遊びⅠ 【学修内容】　言葉の感覚を豊かにする言葉遊びなどの実践を学ぶ。 【事前学修】　保育場面を想定して、自分ができる手遊び、言葉遊びをまとめておく。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間） 第 5 回　言葉遊びⅡ 【学修内容】　幼児の発達の姿と合わせた、言葉を豊かにする言葉遊びの実践について学ぶ。 【事前学修】　Webや参考図書を活用して、新しい手遊びや言葉遊びを見つける。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間） 第 6 回　児童文化財Ⅰ 【学修内容】　児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）についての基礎的知識を学ぶ。 【事前学修】　教科書第11章を読み、児童文化財にはどのようなものがあるかつかんでおく。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間） 第 7 回　児童文化財Ⅱ 【学修内容】　幼児の発達における児童文化財の意義について学ぶ。 【事前学修】　教科書第12章を読み、児童文化財の意義について考察する。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間）

	第 8 回　　まとめ 【学修内容】　これまで学習してきたことを振り返りながら、要点をまとめ、保育者の資質について学ぶ。 【事前学修】　これまでの資料を見直しておく。（2時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（2時間）
評　価　方　法	筆記試験（60%）、平常点（40%）　平素の受講態度、提出物、発表等を加味し総合的に評価する。
教　　科　　書	保育内容「言葉」と指導法　子どもの心とことばに耳を澄ませて（仲本美央・吉永安里編著、萌文書林）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	子どもとことば（岡本夏木著、岩波書店）、ことばと発達（岡本夏木著、岩波書店） ことばの発達の謎を解く（今井むつみ著、筑摩書房）ことば力と思考力（今井むつみ著、筑摩書房） 幼稚園教育要領/ 保育所保育指針/ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社） ０～５歳児の手あそび・うたあそび（阿部直美、ナツメ社）
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
幼児と表現	講義	2	選択		必修	2年・後期	下司貴大
科目コード　HgZAA10306							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	領域に関する専門的事項（表現）

受講する上での注意事項	将来、幼稚園教諭や保育教諭につくことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	表現領域に関する理解を深め、グループ・ワークや学生自身の表現活動を通して、表現を生成してく要素や環境及び過程を具体的にイメージする。そこから乳幼児の心情、認識、思考及び動きなどの要因を分析し、保育現場における指導法や留意点を身に付ける。また、保育者の立場から子どもたちが自分なりに表現しようという意欲を引き出し、表現する喜びや楽しむ態度を育む活動の展開を考える。グループ・ワークや発表の時間にはインターネットを活用し、乳幼児が経験し身に付けていく表現活動についての調べ学習やプレゼンテーションを行う。
到達目標	当該科目では、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域の「表現」の位置づけ、内容及びねらいを理解し、幼児の表現する姿やその発達及び要因を分析する。また、学生自身が幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現活動を体験し、その発達を促す保育構想の展開を考える。
授業の進め方	講義形式の授業だが、表現活動に関わる歌唱、運動、作画、創作などの実践やグループ・ワーク、発表を行う。

第 1 回　授業オリエンテーション、幼児の表現について
【学修内容】　シラバスに沿って授業概要を説明し、本授業における到達目標を明確化する。
【事前学修】　事前にシラバスに目を通し、授業の主旨について確認する。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、改めて学修の到達目標を確認する。（2時間）

第 2 回　子どもの身近にある音楽表現の機能
【学修内容】　子どもの年齢による発達段階と音楽活動の関係性から、幼児期における表現の生成過程を理解する。
【事前学修】　前回の授業内容を振り返り、表現活動の本質や保育者と子どもの表現活動の段階への理解を深める。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、幼児期における音楽表現の機能を確認する。（2時間）

第 3 回　模倣・即時反応の理解と実践
【学修内容】　表現あそびの要素である模倣と即時反応について理解を深め、実践例から教育的要素を学ぶ。
【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、音楽表現の機能について自分なりにまとめる。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、模倣と即時反応の教育的要素を確認する。（2時間）

第 4 回　身体表現を伴う模倣・即時反応の実践
【学修内容】　身体表現を伴った模倣・即時反応の実践例から、子どもの反応と保育者の働きかけについて考察する。
【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、模倣と即時反応の具体例を確認する。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、模倣と即時反応の教育的役割を確認する。（2時間）

第 5 回　音楽の諸要素を用いた表現活動
【学修内容】　子どもの音楽表現とその音楽を形づくっている諸要素との関係性を理解する。
【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、音楽の諸要素について調べる。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、音楽の諸要素と表現活動の関係性を確認する。（2時間）

第 6 回　ソルフェージュの理解と実践
【学修内容】　ソルフェージュについて理解し、その具体例を通して幼児期における音楽表現との関係性を学ぶ。
【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、ソルフェージュについて調べる。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、ソルフェージュと音楽表現の関係性を確認する。（2時間）

第 7 回　インターネットを活用した表現活動
【学修内容】　表現活動におけるICT活用の実践例をもとに、インターネットと音楽表現の関係性について学ぶ。
【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、音楽表現のICTの活用について調べる。（2時間）
【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、インターネットと音楽表現の関係性を確認する。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　歌唱活動の理解と実践 【学修内容】　音楽表現のなかの歌唱活動について理解を深め、実践例をもとに考察する。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、幼児期における歌唱表現の意義を確認する。（2時間） 【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、歌唱教材の楽曲分析の方法を確認する。（2時間） 第 9 回　こどものうたの分析と展開 【学修内容】　歌唱教材を1曲選択し、音楽と歌詞の両面から楽曲分析を行う。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、歌唱教材を1曲選択する。（2時間） 【事後学修】　第8回で配付した資料等を参照し、歌唱教材の楽曲分析をまとめる。（2時間） 第10 回　サウンド・スケープを用いた音楽の可視化 【学修内容】　サウンド・スケープの実践例をもとに、視覚的要素と音楽表現の関係性を学ぶ。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、サウンド・スケープについて調べる。（2時間） 【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、視覚的要素と音楽表現の関係性を確認する。（2時間） 第 11 回　手作り楽器の思案と創作活動 【学修内容】　身近にあるものを使用して手作り楽器の思案を行い、創作活動の重要性を理解する。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、手作り楽器の具体例を調べる。（2時間） 【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、手作り楽器の創作意義をプレゼンテーションできるよう準備する。（2時間） 第12 回　手作り楽器のプレゼンテーションと発表 【学修内容】　自ら思案した手作り楽器について、創作意義をプレゼンテーションし実際に音を出して発表する。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、プレゼンテーションと発表の準備を行う。（2時間） 【事後学修】　他の学生の発表等を参照し、手作り楽器の教育的意義をまとめる。（2時間） 第13 回　オリジナル音楽遊びの思案と創作活動① 【学修内容】　音楽あそびの要素が含まれた活動を思案し、オリジナルの表現あそびを創作する。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、音楽あそびの種類や実施方法について調べる。（2時間） 【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、オリジナル音楽あそびについての思案をまとめる。（2時間） 第14 回　オリジナル音楽遊びの思案と創作活動② 【学修内容】　前回の授業に引き続き音楽あそびの要素が含まれた活動を思案し、オリジナルの表現あそびを完成させる。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、オリジナル音楽あそびについての思案をまとめる。（2時間） 【事後学修】　授業内で配付した資料等を参照し、創作したオリジナル音楽あそびについてのプレゼンテーションと発表を行えるよう準備する。（2時間） 第15 回　オリジナル音楽遊びのプレゼンテーションと発表 【学修内容】　自ら思案したオリジナル音楽あそびについて、創作意義をプレゼンテーションし実際に音を出して発表する。 【事前学修】　前回までの授業内容を振り返り、創作した音楽あそびについてのプレゼンテーションと発表の準備を行う。（2時間） 【事後学修】　他の学生の発表等を参照し、オリジナル音楽あそびの教育的意義をまとめる。（2時間）
評　価　方　法	提出物（提出状況・内容充実度）（50%）、平素の受講態度（50%）
教　科　書	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働省編、フレーベル館）
参　考　書 参 考 資 料 等	こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社）
備　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育内容総論	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	中村 章子
科目コード　HgAAB10307							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	① 保育内容の考え方についての基本を理解する。 ② 保育内容の歴史的変遷を知り、社会の変化と保育内容はどのように変わってきたのか、また、過去の保育内容と現在のそれがどのように関係しているのかについて理解する。 ③ 各領域毎の指導・援助を事例毎に学び、配慮・留意すべき点について理解し、総合的な指導・援助に活かす。 ④ 乳幼児の発達・遊び・生活と保育内容のかかわりについて理解し、幅広い技術を修得する。
到達目標	① 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容の基本を理解する。 ② 幼児期の発達段階に関する五領域の目的、ねらいを理解し、保育・教育内容の計画への見通しができる。 ③ 保育の多様な展開について学び、指導計画の考え方を理解し、保育技術を修得する。
授業の進め方	技術力向上のために保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と結び付け、事例から学ぶ。

第 1 回　オリエンテーション
【学修内容】　シラバスに沿って授業の概要、主旨、評価方法の説明をする。子どもの現状について学ぶ。
【事前学修】　社会状況から子どもの現状について調べる。（0.5時間）
【事後学修】　乳幼児期にふさわしい生活についてディスカッションした内容をまとめる。（0.5時間）

第 2 回　保育内容の構造
【学修内容】　保育の内容と構造に理解を深め、子ども主体の保育について養護と教育について学ぶ。
【事前学修】　幼稚園教育要領、保育所保育指針に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　養護と教育の一体性、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についてまとめる。（0.5時間）

第 3 回　日本における保育内容の変遷
【学修内容】　社会の変化と保育内容の関連について理解を深め、これからの保育について考察する。
【事前学修】　幼稚園教育要領、保育所保育指針に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　これからの保育内容について考察する。（0.5時間）

第 4 回　保育所・幼稚園の一日の流れと遊びや生活について
【学修内容】　映像教材から、子どもの発達や生活に即した保育内容について学ぶ。
【事前学修】　保育所・幼稚園の一日について振り返りイメージする。（0.5時間）
【事後学修】　子どもの心の動きと保育者の関わりについてまとめる。（0.5時間）

第 5 回　「保育所保育指針」にみる保育内容の捉え方
【学修内容】　保育の基本を踏まえた保育内容の展開について理解を深める。
【事前学修】　保育所保育指針を熟読する。（0.5時間）
【事後学修】　子どもの主体性を尊重する保育とは何かレポートにまとめる。（0.5時間）

第 6 回　「幼稚園教育要領」にみる保育内容
【学修内容】　幼稚園教育要領、幼稚園における教育課程について理解を深める。
【事前学修】　幼稚園教育要領を熟読する。（0.5時間）
【事後学修】　家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育について考察しまとめる。（0.5時間）

第 7 回　「五領域」とは何か
【学修内容】　領域、総合的な指導について理解を深める。
【事前学修】　幼稚園教育要領、保育所保育指針に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　事例検討についてまとめる。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　事例で学ぶ「領域」健康と保育内容 【学修内容】　ねらいと内容を理解し保育内容を考察し実践する。 【事前学修】　幼稚園教育要領健康について熟読する。（0.5時間） 【事後学修】　演習の内容についてレポートにまとめる。（0.5時間） 第 9 回　事例で学ぶ「領域」人間関係と保育内容 【学修内容】　ねらいと内容を理解し保育内容を考察し実践する。 【事前学修】　幼稚園教育要領人間関係について熟読する。（0.5時間） 【事後学修】　演習の内容についてレポートにまとめる。（0.5時間） 第 10 回　事例で学ぶ「領域」環境と保育内容 【学修内容】　ねらいと内容を理解し保育内容を考察し実践する。 【事前学修】　幼稚園教育要領環境について熟読する。（0.5時間） 【事後学修】　演習の内容についてレポートにまとめる。（0.5時間） 第 11 回　事例で学ぶ「領域」言葉と保育内容 【学修内容】　ねらいと内容を理解し保育内容を考察し実践する。 【事前学修】　幼稚園教育要領言葉について熟読する。（0.5時間） 【事後学修】　演習の内容についてレポートにまとめる。（0.5時間） 第 12 回　事例で学ぶ「領域」表現と保育内容 【学修内容】　ねらいと内容を理解し保育内容を考察し実践する。 【事前学修】　幼稚園教育要領表現について熟読する。（0.5時間） 【事後学修】　演習の内容についてレポートにまとめる。（0.5時間） 第 13 回　事例で学ぶ「年齢と保育内容」 【学修内容】　子どもの発達と保育環境について理解を深める。 【事前学修】　子どもの発達の特徴について調べる。（0.5時間） 【事後学修】　保育内容、保育者の関りについてディスカッションしたことをまとめる。（0.5時間） 第 14 回　保育の内容を深める遊びや文化財 【学修内容】　生活や遊びによる総合的な保育について理解を深める。 【事前学修】　絵本、伝承遊びなど、身近な遊びについて調べる。（0.5時間） 【事後学修】　遊びを深めるための関わりについてディスカッションしたことをまとめる。（0.5時間） 第 15 回　講義のまとめ 【学修内容】　これからの保育内容の課題について考察する。 【事前学修】　特別な保育ニーズが必要となる子ども、多文化共生、災害、食育について調べる。（0.5時間） 【事後学修】　これからの課題について考察し、必要な保育について考察する。（0.5時間）

評　価　方　法	筆記試験（70%）、平常点（30%）平素の受講態度等を加味する（提出物等）。

教　科　書	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）

参　考　書 参考資料等	適宜紹介する。

備　考	実務経験のある教員：札幌市内の保育所における保育内容に関する実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
環境（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	礒島 年成
科目コード　HgAAB20310							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。これまでの講義を基盤に環境に関して保育者としての取り組み方について自分の考えをもてること。
授業の目的・概要	幼児期は、実体験を基礎に自然を五感で理解する時期であり、自然に触れて遊んだ基礎体験があってこそ、自然を大切に思う気持ちが大人になった時に環境を考える原動力につながっていく大切な時期である。自然あそびの楽しさ、不思議さをまずは保育者が体感し、自然の中にある様々な色や質感の違いに気づき、造形表現を豊かにする知識や感性を養う援助の仕方を学ぶ。 ① 子どもたちをとりまく環境について学ぶ。 ② 子どもたちが身近な環境に積極的にかかわるための方策を学ぶ。 ③ 子どもたちが環境を創造する力を育成する方策を学ぶ。 ④ 子どもたちを問題の環境から守るための知識と技術を学ぶ。 ⑤ 子どもたちをとりまく環境をコントロールすることを学ぶ。
到達目標	身近な環境との関わりに関する領域「環境」のねらいと内容を理解する。 ① 子どもたちをとりまく環境を理解する。 ② 子どもたちが身近な環境に接していることを理解する。 ③ 子どもたちは成長の過程で環境に様々に働きかけていることを理解する。 ④ 子どもたちが生活する環境を整える知識と技術を身に付ける。 ⑤ 子どもが友だちと熱中して遊ぶ環境構成について理解する。
授業の進め方	5領域の「環境」に焦点をあて、子どもが環境の中でどのような活動を行うのかを予測するとともに保育者としての子どものかかわり方、援助の仕方について考えるなど、実践的な視点から授業を進める。
	第１回　「環境」のねらいと目的①要領・指針 【学修内容】　教育要領及び指針の基本やねらい、全体構造を学ぶ。 【事前学修】　幼稚園教育要領の「総則」「ねらい及び内容『環境』」について事前に読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第１回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第２回　「環境」のねらいと目的②内容・留意点 【学修内容】　幼児が経験し身に付けていく内容と留意点について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第２回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第２回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第３回　幼児の発達と環境 【学修内容】　発達を踏まえた幼児の活動を視野に入れた保育構想の重要性を学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第３回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第３回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第４回　自然を活かした活動①季節 【学修内容】　草花、木の実などの自然物や自然環境とのかかわりについて学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第４回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第４回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第５回　自然を活かした活動②動力 【学修内容】　身近な材料での動くおもちゃの製作や遊びの活動から生活に取り入れることを学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第５回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第５回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第６回　標識・文字と関わる活動について 【学修内容】　標識や文字に関わる保育の環境づくりや活動について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第６回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第６回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第７回　数や数字、量と関わる活動について 【学修内容】　数、数量に関わる保育の環境づくりや活動について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第７回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第７回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間）

授業計画	第８回　いろいろな図形と関わる活動について 【学修内容】　図形に関わる保育の環境づくりや活動について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第８回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第８回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第９回　正月等の伝統と生活について 【学修内容】　行事や伝統について幼児が身に付けていく内容や留意点を学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第９回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第９回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第10回　遊びの理解と他領域との関連 【学修内容】　遊びを通して、他領域との関連について実践から学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第10回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第10回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第11回　幼保小の連携・接続について 【学修内容】　保育所（園）、幼稚園と小学校以降のつながりについて学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第11回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第11回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第12回　安全と思いやりの心について 【学修内容】　危険の予見と安全意識、おもいやりの心の育て方を学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第12回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第12回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第13回　幼稚園教育における評価について 【学修内容】　幼稚園教育における評価の考え方について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第13回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第13回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第14回　指導案の作成について 【学修内容】　興味や意欲・探究心を引き出す指導案の作成について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第14回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第14回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間） 第15回　幼児教育の現代的課題について 【学修内容】　保育実践の動向と保育構想の向上について学ぶ。 【事前学修】　事前に配付された第15回の講義資料を読んで予習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　第15回の講義資料を読んで復習し、整理しておく。（0.5時間）
評価方法	講義に関するレポート（20%）、各講義の課題と振り返り（80%）
教科書	使用しない。配付する資料を使用する。
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領解説（文部科学省編、フレーベル館） 保育所保育指針解説（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 授業中適宜資料を配付する。
備考	実務経験のある教員：札幌市内の市立小学校等における実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
言葉（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	安　藤　理恵子
科目コード　ＨｇＡＡＢ２０３１１							担当形態：単独

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

受講する上での注意事項	主体的に課題意識をもって授業に参加し、学習した内容を具体的な子どもの姿や保育の内容に関連付けて考えられるようにすること。
授業の目的・概要	人と人との関係性のなかで育つ言葉の意義と機能について理解し、幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付けることを目的とする。 この授業では、豊かな言葉を育む保育者の関わり方や言葉に対する興味関心を促す環境構成などを、具体的な保育実践や子どもの姿を通じて学んでいく。
到達目標	① 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、乳幼児の言葉の発達過程について言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ② 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付け、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ③ 児童文化財について基礎的な知識を身に付け、幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。 ④ 領域「言葉」のねらい及び内容について理解している。 ⑤ 領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
授業の進め方	教科書を中心に、各時間の到達目標にそって授業を進めていく。毎時間確認小テスト（教科書等を見ても良い）を行い到達度を確認する。その他読み聞かせ、絵本制作、指導案作成の実習を行う。

第 1 回　オリエンテーション
【学修内容】　保育・幼児教育の基本と領域「言葉」について学ぶ。
【事前学修】　教科書第5章を読み、「資質・能力」の育成について大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 2 回　言葉の意義や機能
【学修内容】　人間にとっての言葉の意義や機能について学ぶ。
【事前学修】　教科書1章を読み、言葉のはたらきについて大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 3 回　乳児期の言葉の発達過程
【学修内容】　乳児の言語発達の過程と課題について学ぶ。
【事前学修】　教科書第1章第2を読み、乳児期の言語発達について大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 4 回　幼児期の言葉の発達過程
【学修内容】　幼児の言語発達の過程と課題について学ぶ。
【事前学修】　教科書第4章1、2を読み、幼児期の言語発達について大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 5 回　幼児期から児童期の言葉の発達過程（小学校への連携）
【学修内容】　幼児期から児童期の言語発達の過程と課題について学ぶ。
【事前学修】　教科書第4章3を読み、高年齢児の言語発達について大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 6 回　領域「言葉」のねらいと内容
【学修内容】　保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」について
【事前学修】　教科書第5章の中にある保育指針、教育要領の保育内容「言葉」を読んでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

第 7 回　保育環境と言葉（伝え合い、文字環境、環境構成）
【学修内容】　保育における言葉のやり取り、文字に対する関心を育む保育について学ぶ。
【事前学修】　教科書第7章を読み、ことばを育む環境について大まかにつかんでおく。（0.5時間）
【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　遊びと生活のなかの言葉（言葉遊びを考える演習） 【学修内容】　言葉の感覚やイメージを育む保育実践について言葉遊びを中心に学ぶ。 【事前学修】　保育実習等を振り返り、場面に応じた言葉遊びについてまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 9 回　言葉の問題と援助Ⅰ（特別なニーズを持つ子ども） 【学修内容】　言葉の問題にはどのようなものがあるか、またその援助の仕方について学ぶ。 【事前学修】　教科書8章1を読み、言葉の問題にはどのようなものがあるか大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 10 回　言葉の問題と援助Ⅱ（保護者、関係機関との連携） 【学修内容】　言葉の発達に遅れがある幼児の指導において保護者や関係機関との連携について学ぶ。 【事前学修】　教科書8章2を読み、関係機関とはどのようなものがあるか調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 11 回　児童文化財Ⅰ　絵本 【学修内容】　絵本の児童文化財としての特徴と保育の中で絵本を使った具体的な実践について学ぶ。 【事前学修】　自分の絵本経験についてよかったこと、思いで深かったことなどをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 12 回　０～３歳児の発達と絵本 【学修内容】　0～3歳児に適した絵本とそれを用いた保育実践について学ぶ。 【事前学修】　絵本ナビなどのWebサイトを利用して0～3歳児にふさわしい絵本を調べる。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 13 回　４・５歳児の発達と絵本（絵本を用いた模擬保育の実践） 【学修内容】　４・５歳児に適した絵本とそれを用いた保育実践について学ぶ。 【事前学修】　絵本ナビなどのWebサイトを利用して4・5歳児にふさわしい絵本を調べる。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 14 回　児童文化財Ⅱ　紙芝居等　まとめ 【学修内容】　紙芝居、ペープサートなどの児童文化財の特徴と保育実践での活かし方について学ぶ。 【事前学修】　教科書第14章を読み、それぞれの文化財について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 15 回　幼児とメディア　ICTの活用 【学修内容】　幼児期における電子メディア利用の影響と保育におけるICT活用について学ぶ。 【事前学修】　幼児が利用可な電子メディアにはどんなものがあるか調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）
評　価　方　法	確認小テストと実習（絵本の読み聞かせ、絵本作り、指導案作成）に平素の受講態度を加味し、総合的に評価する（100%）。
教　　科　　書	保育内容「言葉」と指導法　子どもの心とことばに耳を澄ませて（仲本美央・吉永安里編著、萌文書林）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	幼稚園教育要領/ 保育所保育指針/ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（チャイルド本社） 健診とことばの相談（中川信子、ぶどう社） 保育をゆたかに　絵本でコミュニケーション（村中李衣、かもがわ出版） 保育で大活躍！絵本から広がるあそび大集合（石井光恵・甲斐聖子、ナツメ社）
備　　考	欠席の場合、小テストは課題として提出することで評価の対象とする。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
表現（指導法）	演習	1	選択	必修	必修	2年・後期	加藤貴子 今野くる美
科目コード　ＨｇＡＡＢ２０３１２							担当形態：オムニバス

領域及び保育内容の指導法に関する科目	科目に含める必要事項
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、「表現」領域として、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることが目的に掲げられている。子どもは環境とのかかわりの中で抱いた様々な気持ちや気づきを友だちや保育者に伝えようとし、それらを自分なりに表現しようという「意欲」を育んでいく。そして、その中で、様々な体験を通してイメージを豊かにし、表現することの喜びや表現を楽しむ「態度」を培っていく。本授業では、保育者として、以上に掲げられた目的を子どもが達成できるようどのようなかかわりをすべきか、その方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	音楽表現と造形表現の二つの分野の観点から、以下の内容を理解することを目標とする。 ① 保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。 ② 以上を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解し、更には小学校の教科等とのつながりを理解する。 ③ 保育所、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。 ④ 乳幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育構想の重要性を理解する。 ⑤ 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を行う。またその経験から保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。
授業の進め方	15回の授業を「音楽」「造形」の２つの分野に分け、分野ごとに進めていく。

第１回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅰ－１	（担当：今野）
【学修内容】	全体オリエンテーション、即時反応の実践①	
【事前学修】	シラバスに目を通しておく。（0.5時間）	
【事後学修】	配付したプリント内容の復習。（0.5時間）	
第２回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅰ－２	（担当：今野）
【学修内容】	即時反応の実践②	
【事前学修】	提出物の準備と、予習シートの確認をしておく。（0.5時間）	
【事後学修】	配付したプリント内容の復習。（0.5時間）	
第３回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅱ	（担当：今野）
【学修内容】	模倣の理解	
【事前学修】	提出物の準備と、予習シートの確認をしておく。（0.5時間）	
【事後学修】	配付したプリント内容の復習。（0.5時間）	
第４回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅲ	（担当：今野）
【学修内容】	ソルフェージュの実践	
【事前学修】	提出物の準備と、予習シートの確認をしておく。（0.5時間）	
【事後学修】	配付したプリント内容の復習。（0.5時間）	
第５回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅳ	（担当：今野）
【学修内容】	リズム遊びの理解	
【事前学修】	提出物の準備と、予習シートの確認をしておく。（0.5時間）	
【事後学修】	配付したプリント内容の復習。（0.5時間）	
第６回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅴ－１	（担当：今野）
【学修内容】	創作の理解①	
【事前学修】	提出物の準備と、予習シートの確認をしておく。（0.5時間）	
【事後学修】	グループワークでの話し合い内容を振り返りまとめておく。（0.5時間）	
第７回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅴ－２	（担当：今野）
【学修内容】	創作の理解②	
【事前学修】	創作発表における各自の担当内容の確認と練習。（0.5時間）	
【事後学修】	創作発表練習の振り返りをしておく。（0.5時間）	

授　業　計　画	第 8 回	音楽における表現「音楽遊びの実践」Ⅴ－３	（担当：今野）
	【学修内容】	創作の実践③	
	【事前学修】	創作発表における各自の担当内容の確認と練習。（0.5時間）	
	【事後学修】	創作発表とこれまでの学習の振り返りをしておく。（0.5時間）	
	第 9 回	造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ－１	（担当：加藤）
	【学修内容】	こども広場の計画	
	【事前学修】	園の行事と造形活動について調べ、質問の準備をする。（0.5時間）	
	【事後学修】	配付された資料で授業内容を振り返り、理解を深める。（0.5時間）	
	第 10 回	造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ－２	（担当：加藤）
	【学修内容】	こども広場の作成（情報機器によるプレゼン）	
	【事前学修】	指導案の書きかたを確認し、ねらいや内容について見通しをもち、計画案を考えておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	配付された資料で授業内容を振り返り、理解を深める。（0.5時間）	
	第 11 回	造形における表現「身近な素材にふれて」Ⅰ－３	（担当：加藤）
	【学修内容】	こども広場の実践交流	
	【事前学修】	指導案作成と制作のための材料等の準備をしておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	指導案を見直し、実践を見据えて理解を深める。（0.5時間）	
	第 12 回	造形における表現「壁面空間」Ⅱ－１	（担当：加藤）
	【学修内容】	空間デザインの基本（情報機器の活用）	
	【事前学修】	幼児が喜ぶ誕生表と幼児の年齢発達について調べ、デザインの案をまとめておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	共同制作について反省をまとめ、次回の制作の準備をする。（0.5時間）	
	第 13 回	造形における表現「壁面空間」Ⅱ－２	（担当：加藤）
	【学修内容】	こども参加の空間デザイン作成	
	【事前学修】	各年齢発達と幼児の制作について調べ、まとめておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	反省点や学んだことをまとめ、理解を深める。（0.5時間）	
	第 14 回	造形における表現「行事を豊に」Ⅲ－１	（担当：加藤）
	【学修内容】	楽しさの演出基本計画。（情報機器の活用）	
	【事前学修】	園の行事と幼児の制作活動のつながりについて調べ、まとめておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	配付された資料で授業内容を振り返り、理解を深める。（0.5時間）	
	第 15 回	造形における表現「行事を豊に」Ⅲ－２	（担当：加藤）
	【学修内容】	楽しさの演出を活かした制作	
	【事前学修】	幼児の年齢発達と制作活動について調べ、制作の準備をする。（0.5時間）	
	【事後学修】	実際の保育現場を想定した展開について考える。（0.5時間）	

評　価　方　法	それぞれの分野ごとに提出物、発表（50%）、平常点（50%）で評価し、それらを総合して最終評価とする。
教　　科　　書	幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）
参　考　書 参 考 資 料 等	新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現　（無藤隆監修、浜口順子編集代表、萌文書林） 保育者養成のための音楽表現（八木正一監修、竹内貞一編著、大学図書出版） 保育所保育指針解説（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	実技・実践を含む授業となるため、事前に指定された服装、持ち物を準備して受講すること。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
音楽Ⅱ	演習	1	選択	選択必修	選択	2年・前期	今野くる美・下司　貴大 鎌倉　亮太
科目コード　HgaaB20314							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	ピアノの習熟度は就職等の進路に大きな影響を及ぼすこともあり、音楽Ⅰと同様、日々の練習を積み重ねて授業に臨むこと。
授業の目的・概要	保育者（保育士・幼稚園教諭・保育教諭）として必要なピアノ奏法の弾き歌い・伴奏付け等音楽Ⅰをベースにして、継続性を保ち更なるステップアップを目指した科目である。 保育園や幼稚園等実践現場での活用を視野に入れ、実践力の養成と獲得を目的としている。それは必然的に、保育実習、教育実習に連なるものであり、就職の採用試験においても大きな力になるものである。 小グループで編成され、個々人のグレードに応じた個人レッスンの形態は、音楽Ⅰと同様である。
到達目標	①　個々人のグレードに対応しながら、ピアノ演奏のステップアップを図る。 ②　個々人のグレードに対応しながら、弾き歌いレパートリーの拡大を図る。 ③　専門的な音楽理論（和声の基本）を学び実践力を修得する。 ④　伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践力を修得する。
授業の進め方	音楽Ⅰでのレッスンに引き続きブルグミュラーやソナチネ等の教本、こどものうたの弾き歌いを併用しながら、個々の進度に合わせたレッスンを行う。
授業計画	第 1 回～第14回　弾き歌い表Ａ～Ｄグループの中からの曲のレパートリーを広げるために、毎回個人の能力に応じて、２～３曲の宿題を課す。それと同時に、就職試験対策のために教則本の指導を引き続き、弾き歌いを行う。 音楽Ⅱでは、以下のことを身に付けさせることを目的とする。 【学修内容】 ●　個々人のグレードに対応しながら １）ピアノ演奏のステップアップ ２）弾き歌いレパートリーの拡大 ●　より専門的な音楽理論の獲得と実践力 １）和声の基本についての理解と実践力 ２）伴奏付けや簡単なアレンジの基本と実践 ３）保育現場を意識したピアノの奏法を習得する 【事前学修】　前回までの授業で取り組んだ内容（第1回目は、音楽Ⅰで学修した内容）を振り返り、それぞれの自己課題を明確化し技術練習を行う。（0.5時間） 【事後学修】　授業で取り組んだ内容や他者の演習の様子を基に自己課題を明確化し、習得した技術が定着するように継続的な練習を行う。（0.5時間） 第 15 回　まとめと発表会 【学修内容】 ①　弾き歌い表のＡ～Ｄグループの中から課題曲として３曲、自由曲として１曲を提出し、当日指定された２曲を弾き歌い（暗譜の必要なし）する。 ②　ブルグミュラー、ソナチネ以上の教本より１曲、またはひと楽章を演奏（暗譜の必要なし）する。 【事前学修】　第1回目から第14回目までの学修内容を振り返り、発表会に向けた準備、技術練習等を行う。（0.5時間） 【事後学修】　発表会での演奏について振り返り、担当教員からの講評等も加味した自己課題を明確化する。（0.5時間）
評価方法	発表会（90%）、平常点（10%）平素の受講態度等を加味する。
教科書	標準バイエルピアノ教則本（全音楽譜出版社）、ブルグミュラー25の練習曲（全音楽譜出版社） ソナチネアルバム（全音楽譜出版社）等の中から個人の進度に合わせた教本 こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社）
参考書 参考資料等	適宜紹介する。
備考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
身体表現	演習	1	選択	必修	必修	2年・前期	渡　邊　　望
科目コード　HgAAB10315							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 運動のできる服装（ジャージ等）で受講すること。
授業の目的・概要	子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるため、保育者自身が表現遊びを実際に体験し、楽しさや喜びを自分自身で感じる身体表現の感性を養う。また、子どもの豊かな身体表現を引き出すには、保育者の態度や言葉がけ等により大きく影響されることから子どもが楽しみながらのびのびと表現できる環境の作り方を学ぶ。
到達目標	①　ダンスを通して身体で表現する楽しさを味わい、表情豊かに自己表現できる。 ②　自己の感性を高め、全身を使って創造力豊かに表現できる。 ③　子どもの表現遊びにおいてイメージや動きを引き出す効果的な言葉かけや場の設定の工夫を学び、保育者の援助について理解を深める。
授業の進め方	様々な表現遊びを通じて、自身の表現を高めていく。グループでの活動、発表となるので仲間と創意工夫しながら創り上げることで協調性や主体性を身に付け、積極的な態度を養う。

第　1　回	表現とは何か
【学修内容】	ノンバーバルコミュニケーション
【事前学修】	身体表現という言葉からイメージしたことをまとめておく。（0.5時間）
【事後学修】	子どもにとっての表現とノンバーバルコミュニケーションについて理解を深める。（0.5時間）
第　2　回	幼児向けリズムダンス１
【学修内容】	リズムに乗ってからだを動かす。
【事前学修】	授業で紹介した映像資料を見て感じたことをまとめる。（0.5時間）
【事後学修】	授業で行ったリズムダンスの歌と振り付けを復習する。（0.5時間）
第　3　回	幼児向けリズムダンス２
【学修内容】	振り付け素材の動きを使って創作活動
【事前学修】	授業で配付された「振り付け素材の動き」資料に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	創作したダンスの振り付けと創作した感想をまとめる。（0.5時間）
第　4　回	表現遊び１
【学修内容】	手遊び・歌あそび・絵本から身体表現遊びへ
【事前学修】	授業で紹介した絵本を読み、保育現場で使われる手遊びや歌あそびを調べておく。（0.5時間）
【事後学修】	手遊び・歌あそびを復習し、いつでも発表できるように練習しておく。（0.5時間）
第　5　回	表現遊び２
【学修内容】	親子で楽しむからだのふれあい遊び
【事前学修】	授業で配付された「親子のふれあい遊び」資料に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業内容を記録し、親子のふれあい遊びについて学んだことや感想をまとめる。（0.5時間）
第　6　回	表現遊び３
【学修内容】	身近にある素材から身体表現遊びへ
【事前学修】	授業で配付された「新聞紙あそび」資料に目を通し、資料以外の新聞紙遊びを調べる（0.5時間）
【事後学修】	授業内容を記録し、新聞紙あそびについて学んだことや感想をまとめる。（0.5時間）
第　7　回	表現遊び４
【学修内容】	模倣あそび・パラバルーンあそび
【事前学修】	授業で配付された「バルーン遊び」資料に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業内容を記録し、バルーン遊びについて学んだことや感想をまとめる。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　　表現遊びの実践① 【学修内容】　表現遊びの内容とストーリー展開「忍者になりきってあそぼう」 【事前学修】　忍者の動きやポーズなどを調べまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容を記録し、ストーリーから表現の広がりについて学んだことや感想をまとめる。（0.5時間） 第 9 回　　表現遊びの実践② 【学修内容】　グループ発表「にんじゃ」 【事前学修】　グループで創作した忍者の動きを復習し、発表に備える。（0.5時間） 【事後学修】　他者の動きから学んだことや、自分の表現について振り返り感想をまとめる。（0.5時間） 第 10 回　　ミュージカルに挑戦 【学修内容】　題材・配役・担当決め 【事前学修】　題材の台本に目を通し、希望の配役を決めておく。（0.5時間） 【事後学修】　セリフに合わせた動きを確認し、歌と振り付けを復習する。（0.5時間） 第 11 回　　創作活動１ 【学修内容】　ステージを使って練習 【事前学修】　自分の担当するセリフに合わせた動きをイメージしておく。（0.5時間） 【事後学修】　ステージの立ち位置や登場から退場までの動きを明確にしておく。（0.5時間） 第 12 回　　創作活動２ 【学修内容】　フォーメーションを工夫する。 【事前学修】　授業で配付された「フォーメーションの工夫」資料に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　創作したフォーメーションを復習し、発表に備える。（0.5時間） 第 13 回　　創作活動３ 【学修内容】　全体リハーサル 【事前学修】　ミュージカルの全体の流れと担当する出番の動きを明確にしておく。（0.5時間） 【事後学修】　リハーサルを行ってみて改善点をまとめておく。（0.5時間） 第 14 回　　リズムダンスの発表 【学修内容】　授業で行ったリズムダンスをステージで発表する。 【事前学修】　発表するリズムダンスを練習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　他のグループを見て感じたことや、発表を終えた感想をまとめる。（0.5時間） 第 15 回　　発表・まとめ 【学修内容】　ミュージカル発表・まとめ 【事前学修】　リハーサルでの反省点や改善点を確認しておく。（0.5時間） 【事後学修】　発表を終えた感想や授業全体を通して学んだことをまとめる。（0.5時間）
評　価　方　法	課題・創作発表（50%）、提出物等平常点（50%）演習課題への取り組み等を総合して評価する。
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 新訂　豊かな感性を育む身体表現遊び（青木理子ほか共著、ぎょうせい）
備　　考	授業開始時刻を厳守すること。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
乳児保育理論	講義	2	選択	必修		2年・後期	髙塚珠美
科目コード　HgAZA10318							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	「ヒト」の始まりを象徴する乳児（赤ちゃん）の成長・発達の基本を理解させた上で、乳児のエデュケーションを学修する。 ① 乳児保育の意義・目的と役割 ② 乳児保育の現状と課題 ③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育 ④ 乳児保育における連携・協働
到達目標	① 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ② 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ③ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ④ 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
授業の進め方	講義を中心とし、必要な資料はプリントで示す。また、映像の視聴や実例を紹介する中で、リアリティーに現場の実情が把握できるように授業を進める。

第 1 回　保育の意義・目的と役割Ⅰ
【学修内容】　乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 2 回　保育の意義・目的と役割Ⅱ
【学修内容】　乳児保育の役割と機能
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 3 回　保育の意義・目的と役割Ⅲ
【学修内容】　乳児保育における養護及び教育
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 4 回　乳児保育の現状と課題Ⅰ
【学修内容】　乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 5 回　乳児保育の現状と課題Ⅱ
【学修内容】　保育所における乳児保育
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 6 回　乳児保育の現状と課題Ⅲ
【学修内容】　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

第 7 回　乳児保育の現状と課題Ⅳ
【学修内容】　家庭的保育等における乳児保育
【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間）
【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅰ 【学修内容】　３歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 9 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅱ 【学修内容】　３歳未満児の遊び・生活・環境 【事前学修】　教科書の該当範囲すべてに目を通し、乳児期の心身の発達の過程をまとめておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 10 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅲ 【学修内容】　３歳以上児の保育に移行する時期の保育 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通しわからない言葉を調べておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 11 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅳ 【学修内容】　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通し、わからない言葉は調べておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 12 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅴ 【学修内容】　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通し、乳児期ならではの生活の特徴を整理しておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 13 回　　３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育Ⅵ 【学修内容】　乳児保育における計画・記録・評価とその意義 【事前学修】　教科書の該当範囲すべてに目を通しておく。これまでの実習で記録した保育記録を振り返っておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 14 回　　乳児保育における連携・協働Ⅰ 【学修内容】　保護者、職員間との連携・協働 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通してわからない言葉は調べておく。（2時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間） 第 15 回　　乳児保育における連携・協働Ⅱ 【学修内容】　自治体や地域の関係機関等との連携・協働。全体のまとめ 【事前学修】　教科書の該当範囲に目を通しておく。札幌市の広報資料などから保育関係機関について調べておく。（２時間） 【事後学修】　復習ノートを使用して授業内容を見直す。講義のノートを整理しておく。（2時間）
評　価　方　法	筆記試験（70%）、提出物・レポート・授業態度（30%）を総合して最終評価とする。
教　　科　　書	NEW ERA 乳児保育Ⅰ・Ⅱ　実践にいかす乳児の生活と保育（松本園子著　ななみ書房）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	乳児保育の基本（汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一著、フレーベル館） 乳児保育（ＣＨＳ子育て文化研究所編、萌文書林） 平成30年施行　保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（ミネルヴァ書房）
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
乳児保育	演習	2	選択	必修	選択	2年・通年	髙 塚 珠 美
科目コード　ＨｇＡａＢ20319							担当形態：単独

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

受講する上での注意事項	子どもの命を育むために必要な知識である。暗記にとどまらず学修すること。現場の実際について理解を深められるよう積極的な姿勢で授業を受けること。
授業の目的・概要	「ヒト」の始まりを象徴する乳児（赤ちゃん）の成長・発達の基本を理解させた上で、乳児期のエデュケーションを学修する。
到達目標	①　３歳未満児の発育・発達過程や特徴を踏まえた援助や関りの基本的な考えについて理解する。 ②　養護および教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について理解する。 ③　乳児保育の専門性における保護者支援、配慮の実際について理解し、地域・関係機関との連携、職員間の連携・協働を理解する。
授業の進め方	講義を中心とし、必要な資料はプリントで示す。また、グループワーク、演習、映像を視聴する、実例を紹介することにより、現場の実情が把握できるように授業を進める。

第　１　回　　オリエンテーション・人の誕生
【学修内容】　これからの講義の進め方について説明　乳児保育の必要性　人生の基礎としての時期への理解
【事前学修】　教科書理論編Lesson７に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　２　回　　乳児の基礎的理論①
【学修内容】　発達の順序
【事前学修】　教科書理論編Lesson７・８・９・１０に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　３　回　　乳児の基礎的理論②
【学修内容】　発達速度
【事前学修】　教科書理論編Lesson７・８・９・１０に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　４　回　　乳児の運動①
【学修内容】　資質・能力
【事前学修】　教科書理論編Lesson７・８・９・１０、保育所保育指針第2章に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　５　回　　乳児の運動②
【学修内容】　養護及び教育の一体性を踏まえた保育方法
【事前学修】　保育所保育指針　総則に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　６　回　　乳児の遊び①
【学修内容】　主体性の尊重と自己の育ち
【事前学修】　保育所保育指針第2章「保育の実施に関して留意すべき事項」に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
第　７　回　　乳児の遊び②
【学修内容】　体験と学びの芽生え（成長目標の設定と環境）
【事前学修】　教科書理論編Lesson06に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）

授　業　計　画	第　8　回　　乳児の遊び③ 【学修内容】　「主体的に遊ぶ」・「成長目標の達成」を考慮した教材研究 【事前学修】　教科書理論編Lesson06に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　9　回　　乳児の生活や遊びを支える環境構成と応答的な関わり 【学修内容】　乳児に関わる時に発達支援や信頼関係構築に効果的な関わり方について考える。 【事前学修】　教科書アイディア集（P184～）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　10　回　　乳児の発達と遊びの実践 【学修内容】　養護の中での遊び、そこから子どもの発達を促すような関わり方を考える。 【事前学修】　教科書アイディア集（P184～）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　11　回　　乳児の音楽① 【学修内容】　音を通じて聴力の発達と言葉の発達 【事前学修】　教科書理論編Lesson9に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　12　回　　乳児の音楽② 【学修内容】　保育室の騒音、保育者の音、声、動き 【事前学修】　教科書理論編Lesson9に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　13　回　　乳児の睡眠① 【学修内容】　睡眠と発達の仕組み 【事前学修】　教科書理論編Column4乳児の睡眠について　に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　14　回　　乳児の睡眠② 【学修内容】　睡眠中の危機管理と快眠の秘訣 【事前学修】　教科書実践編Lesson10に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　15　回　　乳児の食事① 【学修内容】　食の自立までのプロセス理解と計画の実際 【事前学修】　教科書実践編Lesson6に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　16　回　　乳児の食事② 【学修内容】　適した食事介助 【事前学修】　教科書実践編Lesson5・6に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　17　回　　乳児の生活① 【学修内容】　基本的生活習慣 【事前学修】　教科書実践編Lesson1～8に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　18　回　　乳児の生活② 【学修内容】　自立までのプロセスと指導方法 【事前学修】　保育所保育指針第2章に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　19　回　　乳児の生活③ 【学修内容】　自立を促す一人一人に合った多様かつ応答的関わり 【事前学修】　保育所保育指針第2章に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　20　回　　１日の生活の流れと保育の環境 【学修内容】　保育所の日課、デイリープログラムの設定 【事前学修】　教科書理論編Lesson12に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　21　回　　３歳児未満の集団生活における配慮と保育展開 【学修内容】　3歳未満児の保育内容と配慮事項 【事前学修】　保育所保育指針第2章に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　22　回　　年間カリキュラム、月案、週案、日案、個人カリキュラム（長期計画と短期的な指導計画） 【学修内容】　様々な期間設定の保育計画について学ぶ 【事前学修】　教科書理論編Lesson5・12　これまでの自分の実習記録に目を通してイメージを持っておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　23　回　　子育て支援の内容 【学修内容】　子どもの育ちを分かち合う　子どもの最善の利益のために保育士と家族でチームになるには 【事前学修】　保育所保育指針第4章に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）

	第　24　回　　保護者対応と保護者支援 【学修内容】　子どもの健やかな成長発達のために保護者との信頼関係を作るには 【事前学修】　保育所保育指針第4章に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　25　回　　乳児をめぐる社会的状況と課題 【学修内容】　乳児及び乳児を抱える家庭が置かれている状況と乳児保育の課題を理解する。 【事前学修】　教科書理論編Lesson1・2・3に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　26　回　　乳児の保健と関係機関との連携 【学修内容】　保育園内部だけではなく乳児の成長発達を支える関係機関について知る。 【事前学修】　保育所保育指針第3.4.5章に目を通しておく。札幌市の関係機関を広報誌などで調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　27　回　　保育環境の安心・安全・災害の備えを考える 【学修内容】　不測の事態に備え日々の準備を整える　　物品や知識、心構えを理解する。 【事前学修】　保育所保育指針第3章3.4　教科書実践編Lesson11に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　28　回　　３歳以上児保育に移行する時期の保育と配慮、個人評価 【学修内容】　移行期というデリケートな時期の配慮事項について理解する。 【事前学修】　保育所保育指針第2章3.4に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　29　回　　観察にもとづく記録の書き方 【学修内容】　保育の場面で書く記録の目的と方法、自分の記録の長所と短所について分析する。 【事前学修】　教科書実践編Lesson12に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　復習ノートプリントを見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間） 第　30　回　　乳児保育のまとめ 【学修内容】　これまで学習してきた内容についての振り返り 【事前学修】　これまでの講義資料に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　これまでの復習ノートプリントをすべて見直す。講義のノートを整理しておく。（0.5時間）
評　価　方　法	筆記試験（70%）、提出物・レポート等平素の受講態度（30%）を総合して最終評価とする。
教　　科　　書	はじめて学ぶ乳児保育（志村聡子編著、同文書院） 保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	乳児保育の基本（汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一編著、フレーベル館） 乳児保育（CHS子育て文化研究所編、萌文書林） 平成30年施行　保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント（ミネルヴァ書房）
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
子どもの健康と安全	演習	1	選択	必修		2年・前期	工　藤　美佐子
科目コード　HgAZB10320							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、規則を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。
授業の目的・概要	子どもの健康増進及び心身の発達・発育を促す保健活動や環境について考え、保健活動の計画及び評価について学ぶ。 また、子どもの疾病とその予防及び対応、救急時の対応や事故防止・安全管理について具体的に学ぶ。 ① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助 ② 保育における健康及び安全の管理 ③ 子どもの体調不良等に対する適切な対応 ④ 感染症対策 ⑤ 保育における保健的対応 ⑥ 健康及び安全の管理の実施体制
到達目標	① 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ② 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 ③ 子どもの体調不良等に対する適切な対応や感染症対策について具体的に理解する。 ④ 保育における感染症対策について、具体的に理解する。 ⑤ 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 ⑥ 子どもの健康及び安全の管理にかかわる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。
授業の進め方	教科書と資料のプリントを用い、理論を説明した後、演習を行う。

第 1 回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅰ
【学修内容】	子どもの健康と保育の環境、子どもの保健に関する個別対応と集団全体の安全管理について学ぶ。
【事前学修】	子どもの健康と保育環境（157～159頁）、子どもの保健に関する個別対応と集団全体の安全管理（165～166頁）に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
第 2 回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅱ
【学修内容】	子どもの生活習慣と養護（おんぶ・衣服の着脱）について学ぶ。
【事前学修】	衣服の着脱（164頁）、抱っこおんぶのプリントに目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
第 3 回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅲ
【学修内容】	子どもの生活習慣と養護（オムツ交換）について学ぶ。
【事前学修】	排泄（159～161頁）に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
第 4 回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅳ
【学修内容】	身体の清潔（沐浴）について学ぶ。
【事前学修】	清潔（161～163頁）に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
第 5 回	保育における健康及び安全管理Ⅰ
【学修内容】	嘔吐処理、衛生管理について学ぶ。
【事前学修】	衛生管理（167～172頁）に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
第 6 回	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助Ⅴ。保育における健康及び安全管理Ⅱ
【学修内容】	手洗い・歯みがき、事故防止及び安全対策について学ぶ。
【事前学修】	手洗い・歯みがき（163～164頁）、事故防止及び安全対策（173～180頁）に目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）

授　業　計　画	第 7 回　保育における健康及び安全管理Ⅲ 【学修内容】　危機管理・災害への準備について学ぶ。 【事前学修】　危機管理・災害への準備（181～186頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 8 回　子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅰ 【学修内容】　体調不良や傷害が発生した場合の対応について学ぶ。 【事前学修】　体調不良や傷害が発生した場合の対応（187～203頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 9 回　子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅱ 【学修内容】　応急処置について学ぶ。 【事前学修】　応急処置、救急処置（191～193頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 10 回　子どもの体調不良に対する適切な対応Ⅲ 【学修内容】　救急処置及び救急蘇生法について学ぶ。 【事前学修】　救急処置及び救急蘇生法（203～208頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 11 回　感染症対策 【学修内容】　感染症の集団発生予防・感染症発生時の投薬について学ぶ。 【事前学修】　感染症対策（209～214頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 12 回　保育における保健的対応Ⅰ 【学修内容】　３才未満児への対応（調乳）について学ぶ。 【事前学修】　乳汁栄養（36～40頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 13 回　保育における保健的対応Ⅱ 【学修内容】　個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について学ぶ。 【事前学修】　個別な配慮を必要とする子どもへの対応（217～227頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 14 回　保育における保健的対応Ⅲ 【学修内容】　障害のある子どもへの対応について学ぶ。 【事前学修】　障害のある子どもへの対応（227～235頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間） 第 15 回　健康及び安全管理の実施体制 【学修内容】　職員間の連携、保健活動の計画及び評価。母子保健・地域保健と保育、家庭・専門機関・地域との連携について学ぶ。 【事前学修】　健康安全管理の実施体制（237～249頁）に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、ノートを整理しておく。（0.5時間）
評　価　方　法	筆記試験60%、平常点40%、課題提出物、平素の受講態度を加味する。
教　　科　　書	子どもの保健～健康と安全～第2版補訂版（大澤眞木子監修、へるす出版）
参　考　書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
特別支援教育・障がい児保育	演習	2	選択	必修	必修	2年・通年	安　藤　理恵子
科目コード　ＨｇＡＡＢ20321							担当形態：単独

教育の基礎的理解に関する科目	科目に含める必要事項
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

受講する上での注意事項	特別支援教育と障がい児保育の理念や制度（システム）等の基本的事項を理解するとともに、障がいのあるなしにかかわらず幼児、児童生徒一人一人の特別な教育的ニーズに応じた指導及び適切な支援のあり方について理解するよう、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	近年、保育現場では障がいのある子どもをはじめ様々な教育的ニーズのある子どもが多くなり、保育者には子どもの理解と適切な対応が強く求められており、特別支援教育と障がい児保育の理念や具体的なシステム等を理解するとともに、保育所や幼稚園全体の取り組みとして機能すべきことを学ぶ必要性も大きい。 本講では、国際的な障がい観や障がい児にかかわる歴史的変遷、インクルーシブ教育・保育の理念や基本的事項等について理解するとともに、乳幼児の定型発達と障がい特性について理解を図る。その上で障がいや特別な教育的ニーズのある子どもの具体的な保育や支援のあり方、保護者や家族への支援、専門・関係機関との連携、小学校への就学や引き継ぎ等について解説・説明し保育者としての資質の向上を目指す。
到達目標	①　特別支援教育・障がい児保育の歴史的変遷及び理念や意義、基本的な事項等を理解する。 ②　障がいや気になる子どもを発達的な視点から理解し、適切な関わり方や支援の方法を理解する。 ③　障がいはないが気になる子どもの特別な教育的ニーズの把握や適切な対応等について理解する。 ④　専門・関係機関等との連携や保護者支援、職員間の連携・協働等のあり方について理解する。
授業の進め方	プレゼンテーションや視覚資料を活用した講義で基礎・基本事項を学び、その上で、より実践的な指導内容、指導法について事例検討やグループ討議などを通じて学ぶ。
	第　１　回　　オリエンテーション　障がいの有無にかかわらずすべての子どもが共に学び・育ち合う保育・教育を 【学修内容】　障がい児保育を支える理念について学ぶ。 【事前学修】　教科書第１章1を読んで大まかに内容をつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　２　回　　障がい観の変遷及び、障がいの有無にかかわらず子ども個々の発達等に寄り添う保育・教育の現状 【学修内容】　障がい観の変遷及び障がい児教育・保育の歴史的変遷および現状について学ぶ。 【事前学修】　教科書第１章2を読んで歴史的変遷についておおまかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　３　回　　障がい児の保育に関する制度や法律 【学修内容】　障がい児の保育に関する制度や法律にはどんなものがあるか学ぶ。 【事前学修】　教科書第2章2を読んで制度や法律について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　４　回　　障がいとは　～問題行動？、定型発達では？～ 【学修内容】　障がいについて、定型発達を比較しながら問題点を考察する。 【事前学修】　障がいとは何か自分なりに考え、まとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　５　回　　定型発達について①　０歳児～２歳児 【学修内容】　０歳児～２歳児の定型発達について学ぶ。 【事前学修】　他の教科で学んだ知識も活用しながら、０歳児～２歳児の発達段階について大まかにつかむ。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　６　回　　定型発達について②　３歳児～６歳児 【学修内容】　3歳児～6歳児の定型発達について学ぶ。 【事前学修】　他の教科で学んだ知識も活用しながら、3歳児～6歳児の発達段階について大まかにつかむ。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第　７　回　　障がいの理解と対応・支援①　視覚障害、聴覚障害 【学修内容】　視覚障害、聴覚障害の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第3章2,3を読んで視覚障害、聴覚障害の障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

授業計画	第 8 回　障がいの理解と対応・支援②　知的障害 【学修内容】　知的障がいの障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第4章全体を読んで知的障害の障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 9 回　障がいの理解と対応・支援③　肢体不自由 【学修内容】　肢体不自由の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第3章1を読んで肢体不自由の障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 10 回　障がいの理解と対応・支援④　言語障害、情緒障害 【学修内容】　言語障害、情緒障害の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　国立特別支援教育総合研究所の言語障害・情緒障害の障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 11 回　障がいの理解と対応・支援⑤　発達障害、自閉症スペクトラム障害（ASD） 【学修内容】　発達障害、自閉症スペクトラム障害（ASD）の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第5章1.2を読んで自閉症スペクトラム障害（ASD）の障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 12 回　障がいの理解と対応・支援⑥　注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD） 【学修内容】　注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第5章3を読んでの注意欠如・多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）の特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 13 回　障がいの理解と対応・支援⑦　病弱・身体虚弱、医療的ケア児等 【学修内容】　病弱・身体虚弱、医療的ケア児等の障がい特性と支援について学ぶ。 【事前学修】　病弱・身体虚弱、医療的ケア児等についてインターネットなどで、その障がい特性について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 14 回　障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握①　行動観察・諸検査など 【学修内容】　特別な教育的ニーズを把握するための方法を学ぶ（行動観察・諸検査など） 【事前学修】　教科書第６章1を読んで、大まかに内容をつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 15 回　障がいの有無にかかわらず特別な教育的ニーズの把握②　チェックリスト等の活用、前期のまとめ 【学修内容】　特別な教育的ニーズを把握するための方法を学ぶ（チェックリスト等）前期のまとめを行う。 【事前学修】　前期に配付した資料を見直し、要点を確認しておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 16 回　発達障がい児への関わり方の具体的なポイント①　生活リズムや人間関係づくり 【学修内容】　発達障がい児への関わり方の具体的なポイントを生活リズムや人間関係の視点から学ぶ。 【事前学修】　教科書の第5章2、3の支援について書かれているところを読み、支援の仕方について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 17 回　発達障がい児への関わり方の具体的なポイント②　コミュニケーションや社会性 【学修内容】　発達障がい児への関わり方の具体的なポイントをコミュニケーションや社会性という視点から学ぶ。 【事前学修】　教科書の第5章2、3の支援について書かれているところを読み、支援の仕方について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 18 回　障がい児の保育について①　計画と評価、保育者の連携・協働 【学修内容】　保育計画と評価、具体的な保護者との連携の仕方について学ぶ。 【事前学修】　教科書第6章2、3、9章を読み、指導計画、支援計画、職員間の協働について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 19 回　障がい児の保育について②　発達を促す生活や遊びの環境 【学修内容】　発達を促す生活や遊びの環境について、障がいのある子どもに対する配慮事項とともに学ぶ。 【事前学修】　教科書第7章全体を読み、発達を促す環境構成について大事なところをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 20 回　障がい児の保育について③　子ども同士のかかわりを援助 【学修内容】　子ども同士の関わり合いと育ちあいを育む保育について学ぶ。 【事前学修】　教科書第8章全体を読み、子ども同士の関わり合いに必要な支援について大まかにつかんでおく。(0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 21 回　「日常の保育場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 【学修内容】　障がい児の有無にかかわらず多様なニーズのある子どもの理解と支援について学ぶ。 【事前学修】　多様なニーズとはどのようなものがあるか、インターネット等で調べ大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 22 回　「行事の場面」における、障がいのない子を含む多様な教育的ニーズへの対応例 【学修内容】　「行事の場面」において課題となりやすい場面とその支援について学ぶ。 【事前学修】　子どもにとって、行事にはどのような困難さがあるか予想してみる。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

	第 23 回　保護者・家族の支援①　障がいの有無にかかわらず当事者心理に寄り添う教育的ニーズの共有化 【学修内容】　保護者・家族の支援について具体的な支援について学ぶ。 【事前学修】　教科書第10章全体を読み、保護者支援について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 24 回　保護者・家族の支援②　障がいのない子を含めた専門機関との連携やきょうだい支援など 【学修内容】　保護者・家族の支援するための関係機関との連携について学ぶ。 【事前学修】　教科書第11章1を読み、関係機関について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 25 回　保護者・家族の支援③　教育相談の進め方 【学修内容】　保護者・家族の支援における教育相談の意義や具体的な流れについて学ぶ。 【事前学修】　教科書第15章全体を読み、特に就学相談について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 26 回　専門機関や他機関との連携及び個別の支援計画等の作成 【学修内容】　関係機関の支援の実際。個別の支援計画等の作成について学ぶ。 【事前学修】　自分たちの住む地域にはどのような支援機関があるか調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 27 回　障がい児の就学と特別支援教育について 【学修内容】　就学にむけて特別支援学校との連携や就学までの流れについて学ぶ。 【事前学修】　教科書第12章1，2を読み、就学までの流れについて大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 28 回　小学校への接続と連携 【学修内容】　就学にむけて小学校との連携や就学までの流れについて学ぶ。 【事前学修】　教科書第12章全体を読み、小学校との連携について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 29 回　障がい児保育の現状と課題①　保健・医療・福祉分野 【学修内容】　保健・医療・福祉分野での障がい児保育の現状と課題について学ぶ。 【事前学修】　教科書第13章1，2, 14章1を読み、現状について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間） 第 30 回　障がい児保育の現状と課題②　教育分野、後期のまとめ 【学修内容】　教育分野での障がい児保育の現状と課題について学ぶ。後期のまとめを行う。 【事前学修】　教科書第14章2を読み、現状と支援について大まかにつかんでおく。（0.5時間） 【事後学修】　講義内容を復習し、要点となるところや課題等をまとめる。（0.5時間）

評　価　方　法	定期試験60%、受講態度、提出物等40%。
教　　科　　書	障害児保育　子どもとともに成長する保育者を目指して（藤永保監修、阿部五月・大熊光穂・小泉左江子・田中規子、萌文書院）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	子どもが共に育つための障害児保育（齊藤勇紀・守巧編著、山田謙一医療監修・著者、萌文書林） 多様な子どもたちの発達支援　（藤原里美著、Gakken） これだけは知っておきたい！発達障がい児のある子とのかかわり方　（安藤正・諏訪田克彦編著、Gakken）
備　　考	その他資料を配付する。教科書のまとめ問題、演習から試験出題がある。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育相談支援	演習	1	選択	必修	選択	2年・前期	中村 章子 磯部 ゆかり
科目コード　HgAaB10323							担当形態：オムニバス

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	「保育支援」とは、専門性を有する保育者が、安定した親子関係、養育力の向上を目指して行う子どもの養育（保育）に関する相談・助言・支援等を意味する。「保育者の専門性」についての理解を深め、保護者に対する支援の在り方を学ぶことを目的とする。
到達目標	①　保育相談支援の意義と原則について理解する。 ②　保護者支援の基本を理解する。 ③　保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。 ④　保育所等児童福祉施設における子ども、保護者支援の実際について理解する。
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解、考え方を深めていく。

第１回　オリエンテーション　（担当：中村・磯部）
【学修内容】　保育相談支援とは何かを学ぶ。
【事前学修】　教科書第１章の頁を目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　事例で考察した内容をまとめる。（0.5時間）

第２回　保育相談支援の意義と目的　（担当：中村）
【学修内容】　保育士の専門性と保育相談の関係について理解する。
【事前学修】　教科書第２章の頁を目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　事例で考察した内容をまとめる。（0.5時間）

第３回　保育相談支援の基本Ⅰ　（担当：中村）
【学修内容】　子どもの最善の利益について理解を深め保育士の倫理について考察する。
【事前学修】　教科書第３章の頁を目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　保育士の倫理についてディスカッションした内容をまとめる。（0.5時間）

第４回　保育相談支援の基本Ⅱ　（担当：中村）
【学修内容】　保護者の養育力の向上と支援について理解を深める。
【事前学修】　教科書第４章の頁を目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　ワークシートを完成させる。（0.5時間）

第５回　保育相談支援の基本Ⅲ　（担当：磯部）
【学修内容】　信頼関係を築くための姿勢
【事前学修】　テキストに目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　授業を振り返り、信頼関係の形成について理解を深める。（0.5時間）

第６回　保育相談支援の基本Ⅳ　（担当：磯部）
【学修内容】　関係機関との連携
【事前学修】　テキストに目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　授業を振り返り、地域の関係機関との連携について理解を深める。（0.5時間）

第７回　保育相談支援の実際Ⅰ　（担当：中村）
【学修内容】　保護者への保育支援の実際について理解を深める。
【事前学修】　教科書第７章の頁を目を通しておく。（0.5時間）
【事後学修】　ロールプレイング・心理劇を通して演習した内容をまとめる。（0.5時間）

授　業　計　画	第８回	保育相談支援の実際Ⅱ	（担当：中村）
	【学修内容】	保護者支援の内容	
	【事前学修】	教科書第８章の頁を目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	ロールプレイング・心理劇を通して演習した内容をまとめる。（0.5時間）	
	第９回	保育相談支援の実際Ⅲ	（担当：中村）
	【学修内容】	保護者支援の方法と技術について理解を深める。	
	【事前学修】	教科書第９章の頁を目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	グループディスカッションの内容をまとめる。（0.5時間）	
	第10回	保育相談支援の実際Ⅳ	（担当：磯部）
	【学修内容】	支援の計画・記録・評価・カンファレンス	
	【事前学修】	テキストに目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	授業を振り返り、支援の計画・記録・評価・カンファレンスについて理解を深める。（0.5時間）	
	第11回	児童福祉施設における保育相談支援Ⅰ	（担当：磯部）
	【学修内容】	保育所における保育相談支援	
	【事前学修】	テキストに目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	授業を振り返り、保育所における保育相談支援について理解を深める。（0.5時間）	
	第12回	児童福祉施設における保育相談支援Ⅱ	（担当：磯部）
	【学修内容】	保育所における特別な対応が必要な家庭への支援	
	【事前学修】	テキストに目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	授業を振り返り、保育所における特別な対応が必要な家庭への支援について理解を深める。（0.5時間）	
	第13回	児童福祉施設における保育相談支援Ⅲ	（担当：磯部）
	【学修内容】	要保護児童の家庭に対する支援	
	【事前学修】	テキストに目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	授業を振り返り、要保護児童の家庭に対する支援について理解を深める。（0.5時間）	
	第14回	児童福祉施設における保育相談支援Ⅳ	（担当：磯部）
	【学修内容】	障がい児施設における保育相談支援	
	【事前学修】	テキストに目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	授業を振り返り、障がい児施設における保育相談支援について理解を深める。（0.5時間）	
	第15回	保育者の成長、まとめ	（担当：中村）
	【学修内容】	保育者に求められる保育相談支援について理解を深める。	
	【事前学修】	教科書１５章の頁を目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	保育士に求められる保育相談についてレポートを作成する。（0.5時間）	

評　価　方　法	筆記試験（60%）提出課題等、平常点（40%）演習課題・受講態度等を加味する。
教　　科　　書	保育相談支援（大嶋恭二・金子恵美編、建帛社）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1	選択	必修		1年・後期/2年・前期	斉　藤　　晋
科目コード　HgAZB10402							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育・福祉分野に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰ（施設）と保育実習指導Ⅰ（施設）のいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。
授業の目的・概要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学修内容、課題を明確化するとともに、事前・事後指導を通して、保育所及び施設の総合的な理解・対象児者の理解・保育者としての基礎力を高めていくことが目的である。 ●１年後期～２年前期（15回）：２年次５月又は７月の保育実習Ⅰ（施設）に向けての事前・事後指導を行う。
到達目標	①　保育実習の意義、目的、内容を理解する。 ②　保育実習の心構えについて理解する。 ③　実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ④　実習の事前事後指導を通して、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
授業の進め方	講義・実技・提出物等を中心に授業を展開する。

第　1　回	施設実習の意義Ⅰ
【学修内容】	保育所以外の児童福祉施設で実習することの意義を理解する。
【事前学修】	保育所以外の児童福祉施設の中で実習対象となる施設を理解する。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）
第　2　回	施設実習の意義Ⅱ
【学修内容】	保育所以外の児童福祉施設実習で何を学び体験するかを理解する。
【事前学修】	保育所以外の児童福祉施設実習で何を学びたいのか考える。（0.5時間）
【事後学修】	障がい系施設、養護系施設の選択を考える。（0.5時間）
第　3　回	実習の内容と課題の明確化Ⅰ
【学修内容】	児童福祉施設の意義と子どもの権利を学ぶ。
【事前学修】	保育所以外の児童福祉施設の機能を理解する。（0.5時間）
【事後学修】	障がい系施設、養護系施設の選択を考える。（0.5時間）
第　4　回	実習の内容と課題の明確化Ⅱ
【学修内容】	児童福祉施設の役割・機能・課題を学ぶ。
【事前学修】	児童福祉施設の役割・機能・課題を学ぶ。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）
第　5　回	実習の内容と課題の明確化Ⅲ
【学修内容】	障がい系施設の対象・現状について理解する。
【事前学修】	障がい系の施設の種類について学ぶ。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）
第　6　回	実習の内容と課題の明確化Ⅳ
【学修内容】	障がい系施設における保育士の役割・課題を学ぶ。
【事前学修】	障がい系の施設での保育士としての役割を学ぶ。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）
第　7　回	実習の内容と課題の明確化Ⅴ
【学修内容】	養護系施設の対象・現状を理解する。
【事前学修】	児童養護施設、乳児院について理解する。（0.5時間）
【事後学修】	授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　実習の内容と課題の明確化Ⅳ 【学修内容】　養護系施設における保育士の役割・課題 【事前学修】　自立支援施設、児童心理治療施設について事前学習する。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 9 回　実習に際しての留意事項Ⅰ 【学修内容】　子どもの人権と最善の利益について学ぶ。 【事前学修】　子どもの権利条約について調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 10 回　実習に際しての留意事項Ⅱ 【学修内容】　プライバシーの保護、守秘義務、個人情報保護について理解する。 【事前学修】　施設実習における個人情報保護とはどういう事なのか事前学習する。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 11 回　実習における計画と記録Ⅰ 【学修内容】　実習の3段階計画を学ぶ。 【事前学修】　実習の3段階とはどういうことなのか事前学習する。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 12 回　実習における計画と記録Ⅱ 【学修内容】　施設実習における観察・記録・評価について学ぶ。 【事前学修】　施設実習における観察・記録・評価について事前学習する。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 13 回　事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅰ 【学修内容】　保育所以外の児童福祉施設実習の総括と自己評価をする。 【事前学修】　自己評価項目について事前に確認しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 14 回　事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅱ 【学修内容】　施設実習の振り返りをして、今後の自己課題を見つける。 【事前学修】　授業前に施設実習の振り返りをしてみる。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間） 第 15 回　事後指導における実習の総括と課題の明確化Ⅲ 【学修内容】　実習中の事例検討と今後の自己課題を整理する。 【事前学修】　授業前に自己課題を検索してみる。（0.5時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容を復習し、配付資料とノートを整理しておく。（0.5時間）
評　価　方　法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（30%）提出物（20%）報告書（50%）
教　科　書	使用しない。
参　考　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　考	実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	選択	必修		2年・前期	保育科教員
科目コード　ＨｇＡＺＣ30404							担当形態：複数

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅰ（4単位）と、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅰと保育実習指導Ⅰのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は、各自、参照し実習に備えること。
授業の目的・概要	児童福祉施設で日々営まれる保育活動に参加し、生活や遊びを通して、乳幼児、利用者への理解、児童福祉施設の機能や、そこで働く保育士の職務について学ぶことをねらいとする。 上記ねらいを達成するために、児童福祉施設（保育所以外）における実習行い、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得する。
到達目標	①　児童福祉施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。 ②　既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③　保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。
授業の進め方	「保育実習Ⅰ」は、保育所における２週間、保育所以外の施設における２週間の学外実習である。
時間外学修 学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。
授業計画	福祉施設実習 １．施設の役割と機能 （1）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり、（2）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （1）子どもの観察とその記録、（2）個々の状態に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活と環境 （1）計画に基づく活動や援助、（2）子どもの心身の状態に応じた生活と対応、 （3）子どもの活動と環境、（4）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （1）支援計画の理解と活用、（2）記録に基づく省察、自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （1）保育士の業務内容、（2）職員間の役割分担や連携、（3）保育士の役割と職業倫理 ＊実習１日につき 【事前学修】　実習施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習する。（0.5時間） 【事後学修】　実習ノートを整理し、実習で学んだ知識・技術等を復習しておく。（0.5時間）
評価方法	実習施設からの評価（100%）
教科書	使用しない。

参　考　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）

備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習指導Ⅱ	演習	1	選択	選択必修		2年・前期	中村 章子 中越 亜貴乃
科目コード　HgZAA10303							担当形態：オムニバス

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習指導Ⅱ（１単位）又は保育実習指導Ⅲ（１単位）のいずれかを修得しなければならない。将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。
授業の目的・概要	１年次の保育実習指導Ⅰを基盤とした２年次に行われる保育実習Ⅱの事前事後指導である。保育実習Ⅰからの成果と課題を受けて、より、質の高い実習を目指し、以下のことを目標としている。 実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ保育実践力を培う。保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
到達目標	①　実習への心構え・気構えを準備し、マナーを身に付け、実習を行うことができる。 ②　実習の課題をしっかりと立てることができる。 ③　子どもの発達課題を再学修し、五領域の学びから、指導案・日誌の「ねらい」を立てることができる。
授業の進め方	実践する中から、学びを深める。 具体的な課題、研究活動、実技を通して、個々の実践力量を高める。

第１回	保育実習による総合的な学び	（担当：中村）
【学修内容】	保育実習Ⅰの学びを基礎とし、保育実習Ⅱについて理解を深める。	
【事前学修】	保育実習Ⅰを振り返りまとめておく。（0.5時間）	
【事後学修】	授業を振り返り要点を整理する。（0.5時間）	
第２回	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	（担当：中越）
【学修内容】	子どもの最善の利益と保育の関係について理解を深める。	
【事前学修】	児童憲章を目を通しておく。（0.5時間）	
【事後学修】	授業内容を振り返り、まとめる。（0.5時間）	
第３回	子どもの保育と保護者支援	（担当：中越）
【学修内容】	保護者支援の実際について理解を深める。	
【事前学修】	児童福祉法（第１８条の４）を目を通しておく。（0.5時間）	
【事後学修】	授業内容を振り返り、まとめる。（0.5時間）	
第４回	保育実践力の育成	（担当：中村）
【学修内容】	保育実習Ⅰの学びを基礎とし保育技術を高める。	
【事前学修】	保育実習Ⅰを振り返り、自己課題をまとめておく。（0.5時間）	
【事後学修】	保育技術について要点を整理し修得を目指す。（0.5時間）	
第５回	子どもの状態に応じた適切なかかわり	（担当：中村）
【学修内容】	事例より保育の実際と保育者の関わり、実習生の関わりについて学ぶ。	
【事前学修】	保育実習Ⅰより、様々な子どもの姿を振り返る。（0.5時間）	
【事後学修】	授業内容を振り返り復習する。（0.5時間）	
第６回	保育の表現技術を生かした保育実践	（担当：中村）
【学修内容】	保育技術を表現し、意見交換を通し技術の修得を目指す。	
【事前学修】	表現する技術を準備する。（0.5時間）	
【事後学修】	保育の中で生かされる技術について要点をまとめる。（0.5時間）	
第７回	保育計画と実践	（担当：中村）
【学修内容】	保育実習Ⅰで作成した指導案の評価、改善の視点について学ぶ。	
【事前学修】	保育実習Ⅰで作成した指導案の内容を振り返り改善点を整理する。（0.5時間）	
【事後学修】	保育実習Ⅰで作成した指導案を基に指導案を作成する。（0.5時間）	

授　業　計　画	第 8 回　保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践　（担当：中村） 【学修内容】　保育の全体計画に基づき、子どもの発達、興味を考慮した指導計画を作成する。 【事前学修】　保育所保育指針を熟読し、事例、参考資料に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　作成した計画について考察をする。（0.5時間） 第 9 回　観察、記録、自己評価に基づく保育の改善　（担当：中村） 【学修内容】　子どもの観察の視点、記録記述について改善の要点をまとめる。 【事前学修】　保育実習Ⅰの実習日誌に目を通し振り返りをする。（0.5時間） 【事後学修】　改善の要点をまとめ次回につなげる。（0.5時間） 第 10 回　保育者の専門性と職業倫理　（担当：中村） 【学修内容】　保育士の専門性とは何か、ディスカッションを通し理解を深める。 【事前学修】　事例に目をとおしておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業の内容を振り返り、要点をまとめる。（0.5時間） 第 11 回　事後指導における実習の総括と評価　（担当：中村） 【学修内容】　保育実習Ⅱの内容について振り返りを行い、課題を明確にする。 【事前学修】　保育実習Ⅱについて、観点毎に振り返る。（0.5時間） 【事後学修】　観点毎の課題を整理し、改善を考察する。（0.5時間） 第 12 回　実習の総括と自己評価　（担当：中村） 【学修内容】　保育実習Ⅱの内容をまとめ報告する。 【事前学修】　保育実習Ⅱの内容をまとめる。（0.5時間） 【事後学修】　報告を通し、気付いた点をまとめる。（0.5時間） 第 13 回　課題の明確化　（担当：中村） 【学修内容】　保育実習Ⅱを振り返り、課題を見出す。 【事前学修】　保育実習Ⅱの実習日誌を読み返しておく。（0.5時間） 【事後学修】　課題と改善点についてまとめる。（0.5時間） 第 14 回　自己課題について　（担当：中村） 【学修内容】　実習Ⅱを振り返りディスカッションを通し、自己課題を明確にする。 【事前学修】　改善点について具体的な対応について考察する。（0.5時間） 【事後学修】　具体的な対応について要点をまとめる。（0.5時間） 第 15 回　まとめ　（担当：中村） 【学修内容】　交流会を通し、自己評価から保育実習Ⅱに向け課題を明確にする。 【事前学修】　保育実習Ⅰ（保育所）を振り返り実習Ⅱに向けた課題について整理する。（0.5時間） 【事後学修】　交流会で学んだ内容を振り返りまとめる。（0.5時間）
評　価　方　法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（30%）授業内提出物等（20%）日誌・報告書提出等（50%）
教　　科　　書	使用しない。
参　考　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編、みらい）
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習指導Ⅲ	演習	1	選択	選択必修		2年・前期	斉　藤　　晋
科目コード　HgAZB20406							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習指導Ⅲ（１単位）又は保育実習指導Ⅱ（１単位）のいずれかを修得しなければならない。 将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。
授業の目的・概要	１年次の保育実習を基盤とした、２年次に行われる保育実習指導Ⅲは事前事後指導である。 保育実習Ⅲは児童福祉施設等での実習であり、施設で実習を行う上での心構え、求められる姿勢、施設の専門知識の修得等を目標としている。
到達目標	①　実習の意義と目的を再確認しつつ、保育について総合的に学ぶ。 ②　実習や既習の教科内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 ③　保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 ④　保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤　事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、自己課題を明確にする。
授業の進め方	授業はプロジェクターを使って行う。施設実習で起こり得る様々な事柄を事例を通し、どのように対応すべきなのか、学生と一緒に考えながら授業を進める。
	第　１　回　　施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ① 【学修内容】　保育所以外の児童福祉施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ。 【事前学修】　施設実習におけるソーシャルワークとはどういうことなのか事前に学習する。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　２　回　　施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ② 【学修内容】　保育所以外の児童福祉施設実習におけるソーシャルワークを学ぶ。 【事前学修】　施設実習におけるソーシャルワークとはどういうことなのか事前に学習する。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　３　回　　１度目の施設実習を振り返り２度目の自己課題を明確化する① 【学修内容】　１度目の施設実習の振り返りをする。 【事前学修】　２度目の施設実習の振り返りを事前にしておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　４　回　　１度目の施設実習を振り返り２度目の自己課題を明確化する② 【学修内容】　1度目の施設実習から2度目の実習の自己課題を検索する。 【事前学修】　1度目の実習反省から自己課題を見つけてみる。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　５　回　　施設実習計画を作成する① 【学修内容】　2度目の実習の計画書を作成する。 【事前学修】　2度目の施設実習先の特徴を各自整理する。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　６　回　　施設実習計画を作成する② 【学修内容】　2度目の実習の計画書を作成する。 【事前学修】　2度目の施設実習先の特徴を各自整理する。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第　７　回　　自立支援計画を作成する① 【学修内容】　アセスメントの重要性を理解する。 【事前学修】　アセスメントとはどういうことなのか事前学習する。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　　自立支援計画を作成する② 【学修内容】　事例より自立支援計画を立ててみる。 【事前学修】　自立支援計画票で使う事例を読み込んでおく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 9 回　　障がい系施設実習場面での様々な対応を考える① 【学修内容】　障がい系の施設実習で起こりえる様々なことを学ぶ。 【事前学修】　障がい系の施設実習でどういうことが起こるのか予測してみる。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 10 回　　障がい系施設実習場面での様々な対応を考える② 【学修内容】　障がい系の施設実習で起こりえる様々なことを学ぶ。 【事前学修】　障がい系の施設実習でどういうことが起こるのか予測してみる。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 11 回　　養護系施設実習場面での様々な対応を考える① 【学修内容】　養護系施設実習場面での様々な対応を学ぶ。 【事前学修】　被虐待児の対応を事前学習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 12 回　　養護系施設実習場面での様々な対応を考える② 【学修内容】　養護系施設実習場面での様々な対応を学ぶ。 【事前学修】　発達障がい児の対応を事前学習しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 13 回　　２度目の施設実習の振り返り自己評価をする。 【学修内容】　2度目の施設実習の振り返り自己評価をする。 【事前学修】　事前に自己評価をしておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 14 回　　施設実習の振り返り　施設実習での出来事を共有する① 【学修内容】　施設実習の振り返り　施設実習での出来事を共有する。 【事前学修】　施設実習で起きたことを発表する準備をしておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間） 第 15 回　　施設実習の振り返り　施設実習での出来事を共有する② 【学修内容】　施設実習の振り返り　幼稚園実習に向けて自己課題を検索する。 【事前学修】　施設実習で起きたことを発表する準備をしておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料とノートを整理し復習する。（0.5時間）
評　価　方　法	平素の受講態度・実技・実習等を総合評価する。 平常点（30%）提出物（20%）報告書（50%）
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：北海道内の福祉施設における社会福祉に関する実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習Ⅱ	実習	2	選択	選択必修		2年・前期	保育科教員
科目コード　ＨｇＡＺＣ30407							担当形態：複数

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（2単位）又は保育実習Ⅲ（2単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。
授業の目的・概要	保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質、能力、技術を修得する。 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。
到達目標	①　子どもの個人差、発達の違いに応じた援助の方法を学び、修得する。 ②　保育の一部分、又は一日の保育を担当する指導計画を立案し、実践する。 ③　保育士に必要な資質について理解し、課題を実現させていく具体的方法を考える。
授業の進め方	「保育実習Ⅱ」は保育所における２週間の学外実習である。
時間外学修 学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。
授業計画	保育所実習 保育所の役割や機能の具体的展開Ⅰ：養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の役割や機能の具体的展開Ⅱ：保育所の社会的役割と責任 観察に基づく保育の理解Ⅰ：子どもの心身の状態や活動の観察 観察に基づく保育の理解Ⅱ：保育士等の援助や関わり 観察に基づく保育の理解Ⅲ：保育所の生活の流れや展開の把握 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅰ ：環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅱ ：入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携Ⅲ：関係機関や地域社会との連携・協働 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価Ⅰ ：全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察 ・評価と保育の過程の理解 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価Ⅱ：作成した指導計画に基づく保育実践と評価 保育士の業務と職業倫理Ⅰ：多様な保育の展開と保育士の業務 保育士の業務と職業倫理Ⅱ：多様な保育の展開と保育士の職業倫理 自己の課題の明確化 ＊実習１日につき 【事前学修】　実習施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習する。（0.5時間） 【事後学修】　実習ノートを整理し、実習で学んだ知識・技術等を復習しておく。（0.5時間）
評価方法	各実習施設からの評価（100%）
教科書	使用しない。

参考書 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）

備考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実習Ⅲ	実習	2	選択	選択必修		2年・前期	保育科教員
科目コード　ＨｇＡＺＣ30408							担当形態：複数

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育士資格取得には、保育実習Ⅱ（２単位）又は保育実習Ⅲ（２単位）のいずれかを修得しなければならない。実習と実習指導は連携した科目でなければならない。そのため、保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのいずれかの単位が不認定の場合、両方の単位が不認定となる。 実技（折り紙、ゲーム遊び、制作等）に関する参考書は各自参照し、実習に備えること。
授業の目的・概要	保育実習Ⅲは、保育所以外の児童福祉施設等で行う学外実習である。保育士資格の取得を目指す者にとっては、学内で学んだことを実践の場で理解し体得していくための、相互に関連性を有する重要な科目である。 多くの先輩が、この学外実習に期待を抱き、それぞれの実習先に赴き、終了時には専門職としての心構えと技能を持ち帰ってきた。それに倣い、保育士としての基礎的な知識を定着させ、実践力を修得させる。
到達目標	①　施設の内容、機能等を実践現場での体験を通して理解する。 ②　既修の教科全体の知識・機能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。 ③　保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。
授業の進め方	「保育実習Ⅲ」は保育所以外の児童福祉施設等での２週間の学外実習である。
時間外学修 学修上の助言	保育士としての基礎的な知識を定着し能力を高められる重要な機会と捉え、真摯な態度で取り組むことが求められる。
授業計画	福祉施設実習 １．施設の機能や役割 ２．施設の職員の業務内容 （1）保育士の多様な業務と職業倫理 ３．施設の利用者との関わりと支援方法 （1）受容と共感 （2）ニーズの把握と子ども理解 （3）個別支援（計画書作成と実践） ４．家庭・地域・関連諸機関との連携の実態 （1）家族への支援と対応 （2）多様な専門職との連携・協働 （3）地域社会との連携 ＊実習１日につき 【事前学修】　実習施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習する。（0.5時間） 【事後学修】　実習ノートを整理し、実習で学んだ知識・技術等を復習しておく。（0.5時間）
評価方法	各実習施設からの評価（100%）
教科書	使用しない。

参考書 参考資料等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編著、みらい）

備考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育・教職実践演習	演習	2	選択	必修	必修	2年・後期	加藤　貴子・中村　章子 佐藤由希子
科目コード　HgAAB30409							担当形態：オムニバス

教育実践に関する科目	科目に含める必要事項
	教職実践演習

受講する上での注意事項	将来、保育関連の職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	本講義開講時期は、机上の講義や実習を踏まえ、保育者像がより現実化し、職業についての期待が膨らむとともに、それに対する不安、自己の課題が見えてきている時期である。そのため保育者養成の最終段階で開講される本科目を通して、これから保育者として生きるための心構えを作ることが期待される。 保育の中で起こる様々な課題を乗り越え保育者として成長していくために、保育所（園）、幼稚園等のそれぞれの実践の場で、保育者が直面することや保育者として求められること、問題解決をしていくための糸口等を提供し、学生自身がそれらについて考察することで、保育に積極的に向かう姿勢を身に付けることを目指す。
到達目標	保育者養成課程の最終段階で、これまで学んだことを振り返るとともに、これからの職場で求められる役割や資質についての情報を得ることにより、職業としての保育者を実践的に意識し、これまで学んできたことや自ら持つ力を保育者としての資質向上につなげていくことを目標とする。
授業の進め方	学生一人ひとりの自覚と主体的な取り組みによって展開される。そのため、講義、少人数による演習（グループ討議、ロールプレイング）、個別指導等様々な形で、自らの課題に向き合えるような内容を実施する。

第 1 回	オリエンテーション	（担当：加藤）
【学修内容】	保育・教職実践演習の意義、目的、内容	
【事前学修】	これまでの学修の振り返りをする。（0.5時間）	
【事後学修】	自分自身の得意分野・不得意分野について考える。（0.5時間）	
第 2 回	学外実習の振返り	（担当：中村）
【学修内容】	学外実習の振返りと履修カルテの記入	
【事前学修】	実習日誌等を見返してこれまでの実習について振り返りを行っておく。（0.5時間）	
【事後学修】	履修カルテを見返してこれまでの学びから残りの学生生活での学びの目標を立てる。（0.5時間）	
第 3 回	実習評価をもとにした個人面談	（担当：佐藤・AD）
【学修内容】	自らの振り返りと実習先の実習評価から自己課題を見つける。	
【事前学修】	自らの実習について達成できたこと、課題として残ったことを振り返り自己評価を行っておく。（0.5時間）	
【事後学修】	実習先からの実習評価について自らの実習を振り返る。（0.5時間）	
第 4 回	学外実習から学んだことのグループ討議	（担当：加藤）
【学修内容】	学外実習から学んだことを整理し、実習報告会について計画立案・準備をする。	
【事前学修】	自己課題を明確にし、まとめる。（0.5時間）	
【事後学修】	学外実習の成果と課題を整理する。（0.5時間）	
第 5 回	幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのグループ討議、発表	（担当：加藤）
【学修内容】	子どもに対する保育者の責任を考える具体事例について各自の考えを深め、グループ討議で視野を広げる。	
【事前学修】	幼稚園教諭の職務内容を確認し、事例を通して幼稚園教諭の責任について討議、発表（0.5時間）	
【事後学修】	本日の気付きを整理しまとめ、振り返りを記入する。（0.5時間）	
第 6 回	幼稚園教諭の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのロールプレイング	（担当：加藤）
【学修内容】	幼稚園教諭、保護者になりロールプレイングをし、子どもに対する責任と保護者への対応を学ぶ。	
【事前学修】	学外実習での幼稚園教諭の保護者対応の様子を思い出しまとめる。（0.5時間）	
【事後学修】	演じてみての感想や幼稚園教諭の責任についてまとめる。（0.5時間）	
第 7 回	保育内容等の指導力「社会福祉分野」についてのグループ討議、発表	（担当：中村）
【学修内容】	保育者に必要な福祉について理解を深める。	
【事前学修】	社会福祉の担い手としての保育者の役割を調べる。（0.5時間）	
【事後学修】	社会福祉の担い手としての保育者の役割理解を深める。（0.5時間）	

授　業　計　画	第 8 回	保育内容社会福祉分野についてのロールプレイング	（担当：中村）
	【学修内容】	子ども家庭福祉における保育者の役割を考える。	
	【事前学修】	児童福祉施設における保育者の役割を調べる。（0.5時間）	
	【事後学修】	保育者に必要な福祉について理解を深める。（0.5時間）	
	第 9 回	保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのグループ討議、発表	（担当：中村）
	【学修内容】	保育をめぐる社会状況と保育者に求められる役割について理解を深める。	
	【事前学修】	事例に目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	グループ討議の内容をまとめる。（0.5時間）	
	第 10 回	保育士の役割、職務内容、子どもに対する責任についてのロールプレイング	（担当：中村）
	【学修内容】	保育者として成長していくために必要な過程について理解する。	
	【事前学修】	事例に目を通しておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	ロールプレイングから学んだ内容についてまとめる。（0.5時間）	
	第 11 回	社会性、対人関係能力についてのグループ討議、発表	（担当：佐藤）
	【学修内容】	社会性と対人関係能力について考える。	
	【事前学修】	社会性と対人関係能力について事前に調べておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	グループ討議を通して得られた知識や情報を整理し、理解を深める。（0.5時間）	
	第 12 回	社会性、対人関係能力についてのロールプレイング	（担当：佐藤）
	【学修内容】	社会性や対人関係能力について事例を考える。	
	【事前学修】	社会性や対人関係能力について事例を調べておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	ロールプレイングで得られた課題などを整理し、理解を深める。（0.5時間）	
	第 13 回	幼児理解、学級経営についてのグループ討議、発表	（担当：加藤）
	【学修内容】	幼児理解についてのビデオカンファレンスとグループ討議、発表	
	【事前学修】	幼児教育における幼児理解について調べたことをまとめておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	配付された資料や授業内容から、実際の保育現場での活用を想定して重点を整理しておく。（0.5時間）	
	第 14 回	幼児理解、学級経営についてのロールプレイング	（担当：加藤）
	【学修内容】	幼稚園における学級経営案の理解とロールプレイング	
	【事前学修】	幼稚園における学級経営案について調べまとめておく。（0.5時間）	
	【事後学修】	配付された資料や授業内容から、保育現場での活用を想定しまとめる。（0.5時間）	
	第 15 回	保育内容等の指導力「音楽分野」についてのグループ討議、発表	（担当：中村）
	【学修内容】	保育内容音楽分野について教材研究を行う。グループ討論を行い理解を深める。	
	【事前学修】	これまでの学修内容をもとに、保育内容音楽分野指導力について自分なりにまとめる。（0.5時間）	
	【事後学修】	他の学生の発表内容を共有し、保育内容音楽分野について明確化する。（0.5時間）	
	第 16 回	保育内容音楽分野についてグループ発表、ロールプレイング。	（担当：中村）
	【学修内容】	第15回の学修内容をもとにロールプレイングを行い、音楽分野に関して理解を深める。	
	【事前学修】	第15回の学修内容を振り返り、音楽分野に関して自分なりにまとめる。（0.5時間）	
	【事後学修】	ロールプレイングを通して学んだ実践的内容をまとめる（0.5時間）	
	第 17 回	自己課題の明確化	（担当：加藤）
	【学修内容】	学外実習の成果と課題をまとめ、グループで討議し、パワーポイントを作成する。	
	【事前学修】	学外実習の成果と課題を整理する。（0.5時間）	
	【事後学修】	パワーポイント作成について振り返り、まとめを深める。（0.5時間）	
	第 18 回	学外実習から学んだこと	（担当：加藤）
	【学修内容】	学外実習報告会に向けて、グループ討議、パワーポイント作成、発表準備	
	【事前学修】	分担のパワーポイントを各自作成する。（0.5時間）	
	【事後学修】	実習報告会に向けて発表の準備をする。（0.5時間）	
	第 19 回	全体会　学外実習から学んだことの交流・発表（実習報告会）	（担当：加藤・佐藤）
	【学修内容】	学外実習の学修成果を保育所・施設・幼稚園の種別ごとにまとめ、発表を通して改めて自己課題を明確化する。	
	【事前学修】	個々の学外実習での学修成果をまとめ、グループ討論で共有できるよう準備する。（0.5時間）	
	【事後学修】	自らの１年次の姿を思い返して２年間の学びを振り返る。（0.5時間）	
	第 20 回	保育内容等の指導力「保育環境分野」についてのグループ討議、発表	（担当：中村）
	【学修内容】	保育の環境を構成する。	
	【事前学修】	子どもの生活において望ましい環境について調べる。（0.5時間）	
	【事後学修】	保育における環境の意義について討議した内容をまとめる。（0.5時間）	

	第 21 回　保育内容等の指導力「保育環境分野」についてのロールプレイング　（担当：中村） 【学修内容】　環境と子どもの関りについて理解を深め保育者の関わり方を考察する。 【事前学修】　環境について討議した内容に目を通しておく。（0.5時間） 【事後学修】　ロールプレイングから学んだ内容についてまとめる。（0.5時間） 第 22 回　保育内容等の指導力「人間生活分野」についてのグループ討議、発表　（担当：佐藤） 【学修内容】　保育現場に求められている環境や設備とはどのようなものか考える。 【事前学修】　出身園や実習先等の施設設備について調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業で取り上げた事例をもとに施設設備に込められたねらいや配慮について考える。（0.5時間） 第 23 回　保育内容等の指導力「人間生活分野」についてのロールプレイング　（担当：佐藤） 【学修内容】　理想の保育環境について考える。 【事前学修】　保育者、保護者、子どもの視点から理想の環境構成とは何か考える。（0.5時間） 【事後学修】　理想の保育環境を考えることから自らの保育観について知る。（0.5時間） 第 24 回　事例検討　（担当：加藤） 【学修内容】　小学校との連携について 【事前学修】　幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿について事前に調べ、内容を理解しておく。（0.5時間） 【事後学修】　幼保小の学びの接続について授業内容を振り返り、大切なポイントをレポートにまとめる。（0.5時間） 第 25 回　事例検討　（担当：中村） 【学修内容】　生き生きと遊ぶ子どもの生活について 【事前学修】　子どものあそびについて実習を振り返る。（0.5時間） 【事後学修】　子どもの育ちの過程、援助の多様さについてまとめる。（0.5時間） 第 26 回　事例検討　（担当：中村） 【学修内容】　子どもの思いの理解と保育者の願い 【事前学修】　実習から子どもと保育者の関りの出来事を振り返る。（0.5時間） 【事後学修】　事例検討の内容をまとめる。（0.5時間） 第 27 回　事例検討　（担当：加藤） 【学修内容】　子ども同士のトラブルのかかわり方 【事前学修】　個の育ちと集団の育ちについてと保育者の関わりについて調べ、考えをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　使用したワークシートをもとに実際の保育現場を想定してポイントを整理する。（0.5時間） 第 28 回　事例検討　（担当：加藤） 【学修内容】　配慮が必要な子どもに対する援助と連携 【事前学修】　幼稚園・保育所・認定こども園における特別な教育的支援について調べ、質問などをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容を基に実際の保育現場で工夫できる援助等を整理し、まとめる。（0.5時間） 第 29 回　個別課題　（担当：佐藤） 【学修内容】　資質能力の確認 【事前学修】　資質と能力について事前に調べておく。（0.5時間） 【事後学修】　資質と能力について理解を深める。（0.5時間） 第 30 回　個別課題　（担当：佐藤） 【学修内容】　まとめ 【事前学修】　既習事項について振り返り、個別の課題を明確にしておく。（0.5時間） 【事後学修】　個別の課題に対して対応策や取り組みについて考える。（0.5時間）
評価方法	レポート、授業内の課題等を総合的に評価する。（90%） 平常点（10%）平素の授業態度等を加味する。
教科書	必要に応じて資料を配付する。
参考書 参考資料等	ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習（増田まゆみ・矢藤誠慈郎編著、建帛社） 保育・教職実践演習　保育者に求められる保育実践力（小原敏郎・神蔵幸子・義永睦子編著、建帛社） 保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み　幼稚園保育所編（小櫃智子・矢藤誠慈郎編著、わかば社）
備考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
教育・保育相談	講義	2	選択	選択必修	必修	2年・後期	佐藤由希子・木村 彰子 中越亜貴乃
科目コード　HgaAA10206							担当形態：オムニバス

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	科目に含める必要事項
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

受講する上での注意事項	保育・教育相談を受ける対人援助の役割を担う職に就くことを念頭に置いて、受講態度そのものが学びであることを理解し、人の話を「聴く」という意識を強く持って臨むこと。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。
授業の目的・概要	近年の少子化、男女共同参画社会の時代にあって、保育所（園）、幼稚園に求められるもの、保育者の役割も子どもたちの育ちにかかわることだけでなく、家族関係の悩み等「心の問題」に関した保護者からの相談に応じざるを得ない状況へと変化してきている。 保育現場での実際（相談内容）を知り、保育・教育相談に応じる姿勢や考え方を学ぶことを目的とする。
到達目標	① 保育相談の基本原理、意義と理論について理解する。 ② カウンセリングの理論及び技法について理解する。 ③ 保育者としてカウンセリングを行う際の基本的姿勢について理解する。 ④ 保育現場における保育相談の技法及びその活用の仕方について理解する。 ⑤ 保育相談における組織的な取組みや連携の必要性を理解する。
授業の進め方	事例を中心に授業を進め、演習課題を通して理解し、考え方を深めていく。

	第 1 回	オリエンテーション	（担当：佐藤）
	【学修内容】	シラバスに沿って授業概要、趣旨、評価方法の説明をする。教育・保育相談の意義について学ぶ。	
	【事前学修】	授業前にシラバスに目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	シラバスや授業内で配付したプリント資料を参照して本授業の概要と目的について理解を深める。（2時間）	
	第 2 回	保育・幼児教育とは何か	（担当：佐藤）
	【学修内容】	保育・教育相談のあり方と今日的課題について学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第１章「保育の場における相談ニーズとカウンセリング・マインド」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 3 回	カウンセリングの理論と技法Ⅰ	（担当：木村）
	【学修内容】	「子どもの発達とアセスメント」	
	【事前学修】	日常生活や実習での体験から、相談に関わる体験をまとめておく。（2時間）	
	【事後学修】	授業で学んだ内容を参考に、アセスメントについてノートに整理する。（2時間）	
	第 4 回	カウンセリングの理論と技法Ⅱ	（担当：木村）
	【学修内容】	「カウンセリングの基礎理論」	
	【事前学修】	自分自身の悩んだ時や混乱した時の心の動き・行動について、まとめておく。（2時間）	
	【事後学修】	カウンセリングの理論と日常生活に活かせることをノートに整理する。（2時間）	
	第 5 回	保育相談の基礎	（担当：佐藤）
	【学修内容】	「傾聴・受容・共感」	
	【事前学修】	教科書第6章「保育場面でのカウンセリング技法の活用」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 6 回	保育相談の技法Ⅰ	（担当：佐藤）
	【学修内容】	「言語コミュニケーション」について演習課題を通して学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第6章「保育場面でのカウンセリング技法の活用」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	

授　業　計　画	第 7 回	保育相談の技法Ⅱ	（担当：佐藤）
	【学修内容】	「非言語コミュニケーション」について演習課題を通して学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第6章「保育場面でのカウンセリング技法の活用」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 8 回	乳幼児の発達と保育相談	（担当：佐藤）
	【学修内容】	発達過程から子どもの育ちの特徴を捉え子どもの育ちに応じた支援について学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第2章「子どもの発達理解と相談・支援」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 9 回	保護者の理解と対応の仕方Ⅰ	（担当：佐藤）
	【学修内容】	「子育て支援の視点から」	
	【事前学修】	教科書第3章「保護者への対応ー子育て支援の視点から」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 10 回	保護者の理解と対応の仕方Ⅱ	（担当：佐藤）
	【学修内容】	「保護者の要望・抗議とどう向き合うか」	
	【事前学修】	教科書第3章第２節「保護者の要望と園の方針との間で」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 11 回	気になる子どもとその保護者への対応	（担当：中越）
	【学修内容】	保育現場の事例をもとに気になる子どもとその保護者への対応方法を学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第４章「発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 12 回	発達障がいのみられる子どもとその保護者への対応	（担当：中越）
	【学修内容】	保育現場の事例をもとに発達障がいのみられる子どもとその保護者への対応方法を学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第４章「発達障害や気になる子どもとその保護者へのかかわり」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 13 回	保育所（園）・地域における専門家との連携	（担当：中越）
	【学修内容】	保育現場の事例をもとに園・地域における人的資源（専門家）と社会資源について学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第7章「園・地域における専門家との連携による相談・支援」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 14 回	保育者の専門性と相談活動	（担当：佐藤）
	【学修内容】	保育の知識・技能と倫理観に支えられた判断について学ぶ。	
	【事前学修】	教科書第8章「保育者の専門性と相談活動」の頁を中心に目を通しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	
	第 15 回	援助者自身のケアとメンタルヘルス	（担当：佐藤）
	【学修内容】	基礎的対人関係のトレーニングを行い援助的対人関係の学びを総括する。	
	【事前学修】	今までに学んだカウンセリングの知識について復習しておく。（2時間）	
	【事後学修】	今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）	

評　価　方　法	筆記試験（60%）、平常点（40%）演習課題・受講態度等を総合評価する。
教　　科　　書	子どもの理解と保育・教育相談（小田豊・秋田喜代美編、みらい）
参　考　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館） 授業中に適宜資料を配付する。
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
教育・保育社会学	講義	2	選択	選択必修	必修	2年・後期	髙　橋　　均
科目コード　HgaAA10207							担当形態：単独

教育の基礎的理解に関する科目	科目に含める必要事項
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

受講する上での注意事項	将来、子どもの教育・支援に携わる職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から６単位以上を取得すること。
授業の目的・概要	保育・幼児教育・学校教育という営みは、子どもの育ちに深く関わり、社会生活のあり方を方向付け、社会の存続（維持・再生産）と変容を左右する。それは、私たちが生きるこの社会を創っていく土台となるものでもある。保育者を志す者にとって、保育・幼児教育・学校教育を含めた「教育」という営みの特質や教育制度・行政・経営（危機・安全管理）について深く理解することは、子どものよりよい育ちを支えることはもちろんのこと、よりよい社会を創出するためにも不可欠な課題であるといえよう。 本講義では、社会学的な視点から、保育・幼児教育制度から学校教育制度にいたる子どもの育ちに関わる教育システムを取り上げ、その機能・役割について考察する。また、保育・幼児教育・学校教育経営及び行政や子どもの生活に関わる現代的問題を取り上げ、子どもの育ちと教育制度・社会的環境が相互に関連し合うという認識を養い、具体的な課題解決に向けて、自分なりの考察を展開できるようになることを目的とする。
到達目標	①　教育・保育社会学とは、何をどのような方法で明らかにする学問なのか、また、どのような性格を持つ学問なのかを理解する。 ②　社会学的な視点から保育・幼児教育・学校教育制度や教育行政について理解し、分析・考察する能力を身に付ける。 ③　社会学において用いられる概念や理論について理解を深めつつ、保育・幼児教育・学校教育をめぐる現状や子どもの育ちをめぐる課題、保護者を取り巻く問題について分析・考察を展開できる。 ④　保育所・幼稚園と地域との連携及び保育所・幼稚園における子どもたちの安全管理について理解を深める。
授業の進め方	講義形式が中心となるが、学修内容の確認・定着および学習内容の現実的課題への応用を図るため、各回小レポートを課す。講義内容理解・定着の手助けとなるよう、講義スライドの空欄個所を穴埋めしていくプリントを配付する。

第　１　回	教育・保育社会学とは何か
【学修内容】	客観的視点の重要性と教育社会学的想像力という概念について理解する
【事前学修】	テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「序章」に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　２　回	保育・幼児・学校教育制度と社会
【学修内容】	戦前期から現代までの教育制度および教育法規・教育改革の変遷について理解する
【事前学修】	テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第5章」および「第7章」に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　３　回	保育所・幼稚園・学校の社会的役割と教育行政
【学修内容】	児童福祉施設／学校の経営・ＰＤＣＡサイクルの意義・教育政策の展開について学ぶ
【事前学修】	インターネット上の記事を検索し、児童福祉施設・学校の経営についてどのような課題があるのか調べておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　４　回	子ども観・子どもの生活の変化とその社会的背景
【学修内容】	メディア環境・情報化社会との関連について学ぶ
【事前学修】	テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第4章」に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　５　回	子どもの社会化Ⅰ
【学修内容】	社会化理論の展開過程と子どもの社会化に関する実証的研究について学ぶ
【事前学修】	テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第1章」に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　６　回	子どもの社会化Ⅱ
【学修内容】	日本における「しつけ」の変遷について理解するとともに、しつけをめぐる現代的状況について学ぶ
【事前学修】	テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第1章」に目を通しておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
第　７　回	子どもの発達と社会
【学修内容】	「ネットワークとしての子ども」という視点をふまえつつ、子どもの発達と社会との関連について理解する
【事前学修】	インターネット上の記事を検索し、子どもの発達をめぐってどのような議論がなされているのか調べておく。（2時間）
【事後学修】	配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）

授　業　計　画	第 8 回　いじめ問題の理解と対応 【学修内容】　いじめの生成に関する理論、いじめの実態、およびいじめ抑止の方法について検討する 【事前学修】　テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第8章」に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 9 回　試験制度と学歴社会 【学修内容】　幼児教育にまで及ぶ競争社会の今日的様相について理解し、学歴社会の問題点について考察する 【事前学修】　テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第10章」に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 10 回　家庭教育・学校教育が生み出す社会的不平等 【学修内容】　社会的・文化的再生産論の視点から 【事前学修】　テキスト『想像力を拓く教育社会学』の「第1章」に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 11 回　育児メディアを社会学的に読み解く 【学修内容】　育児雑誌の記事・読者層の分析から、育児雑誌が今日の社会において果たす役割・機能について考える。 【事前学修】　テキスト『育児言説の社会学』に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 12 回　家族の教育戦略と教育格差 【学修内容】　ペアレントクランシー化のなかの子育て・教育 【事前学修】　テキスト『育児言説の社会学』および『想像力を拓く教育社会学』の「第3章」に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 13 回　保育・幼児教育施設・学校における安全危機管理 【学修内容】　自然災害・人災・事故に強い保育所・幼稚園・学校づくりについて学ぶ 【事前学修】　インターネット上の記事を検索し、教育・保育の安全危機管理をめぐる議論について調べておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 14 回　家族・学校・地域社会 【学修内容】　保護者・学校外の関係諸機関の連携／地域に開かれた学校づくりと「チームとしての学校」について学ぶ 【事前学修】　インターネット上の記事を検索し、教育・保育の地域連携をめぐる議論について調べておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間） 第 15 回　グローバル化する社会と諸外国の保育・幼児教育・学校教育事情 【学修内容】　越境する子ども・家族とグローバル化をめぐる課題について検討するともに、海外での先進的な取り組みについて学ぶ。 【事前学修】　テキスト『育児言説の社会学』および『想像力を拓く教育社会学』の「第13章」に目を通しておく。（2時間） 【事後学修】　配付資料の穴埋めにより完成したノートの内容に目を通し、概念・知識の確認および定着を図っておく。（2時間）
評　価　方　法	各回の小レポートの提出状況（20%）ならびに解答内容（80%）に基づき、評価を行う。
教　　科　　書	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 育児言説の社会学―家族・ジェンダー・再生産（天童睦子編、世界思想社） 想像力を拓く教育社会学（髙橋均編、東洋館出版社）
参　考　書 参 考 資 料 等	新版　教育社会学を学ぶ人のために（石戸教嗣編、世界思想社） しつけの社会学―社会化と社会統制(柴野昌山編、世界思想社) これからの子ども社会学―生物・技術・社会のネットワークとしての「子ども」(A．プラウト、新曜社)
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
児童文学	講義	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	久保田　知恵子
科目コード　HgaaA20326							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭におきながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から６単位以上を修得すること。
授業の目的・概要	児童文学の一ジャンルである絵本は、保育の現場で重要な役割をもつ文化財です。乳幼児期にすぐれた絵本と出会うことは、長い人生の土台づくりとして大きな意味をもっているからです。したがって、保育者になる前に「絵本」について学ぶことは、質の高い保育活動を行う上で必要なことと考えます。 本講義では、絵本についての理解を深めることを目的として、絵本表現の特徴、その発展の歴史、また、幼い子どもたちにとっての絵本の意義や役割について、さらに、子どもたちの心に届く読み聞かせ方、その基本について学んでいきたいと考えます。 その際、グリムやアンデルセンの古典から現代までの質の高い、すぐれた絵本を紹介していきます。絵本の深さを実感することで、子どもの育ちを支える絵本の力について、より理解が深まると考えるからです。
到達目標	①　絵本とは何か。その特性についての理解を深めること。 ②　絵本を子ども達に読み聞かせることの意味について理解を深め、保育の現場で、絵本の力を充分に生かせるようにすること。
授業の進め方	講義形式が中心になるが、グループごとに一冊の絵本をじっくりと見てもらい、発見したことや感想などを書いてもらう。また絵本作家のDVD鑑賞をしてもらうこともある。 試験は行わないが、子どもたちに読み聞かせしたい絵本を３冊選び、それぞれの絵本のオススメポイントを文章にしてもらう。（文章作成は最終講義日に時間をつくる）
	第　１　回　　ガイダンス　絵本表現の特徴 【学修内容】　絵本表現の特徴と魅力について理解を深める。 【事前学修】　絵本とは何か、その特徴とは何か、自分なりに考えてみる。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間） 第　２　回　　子ども観の変遷と絵本の発展 【学修内容】　第1回目で学んだ絵本表現がいつ、どこの国で、誰によって、なぜ始められたかについて理解を深める。 【事前学修】　事前に配付した講義用のプリントを読んでおく。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間） 第　３　回　　昔話・童話をもとにした絵本①　イソップ、グリム 【学修内容】　イソップ童話とグリム童話との違い、特にグリム童話が果たした世界的な功績について知る。 【事前学修】　イソップ童話とグリム童話をいくつか読んでおく。（２時間） 【事後学修】　プリントを見ながら授業で学んだ内容を復習し、ノートをまとめる。（２時間） 第　４　回　　昔話・童話をもとにした絵本②　様々な昔話絵本 【学修内容】　様々な国の昔話絵本を紹介しながら、子どもの成長と昔話の関わりについて学ぶ。 【事前学修】　昔話の特徴と魅力について自分なりに考えてみる。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間） 第　５　回　　昔話・童話をもとにした絵本③　アンデルセン童話 【学修内容】　児童文学の原点といわれるアンデルセン童話の特徴とその古びない魅力について理解を深める。 【事前学修】　アンデルセン童話にはどんな作品があったか、調べておく。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に作品を読むことで確認する。（２時間） 第　６　回　　創作物語絵本の始まり　「ピーターラビットシリーズ」他 【学修内容】　絵本表現の魅力、また物語に秘められた作者の思いと普遍性について学ぶ。 【事前学修】　「ピーターラビット」シリーズにはどんな作品があるか調べておく。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間） 第　７　回　　創作物語絵本の発展①　アメリカ絵本（ワンダ・ガアグ、マージョリー・フラックなど） 【学修内容】　アメリカで絵本が大きく発展した背景と発展期の絵本を学ぶ。 【事前学修】　アメリカ絵本にはどんな作品があるのか調べてみる。（２時間） 【事後学修】　授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）

授　業　計　画	第 8 回	創作物語絵本の発展②　アメリカ絵本（バージニア・リー・バートン、マリー・ホール・エッツなど）
	【学修内容】	黄金期前半のアメリカ絵本について学ぶ。
	【事前学修】	特にバージニア・リー・バートンは大切な絵本作家であるため、作品について調べておく。（２時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について。実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 9 回	創作物語絵本の発展③　アメリカ絵本（モーリス・センダック、レオ・レオニなど）
	【学修内容】	黄金期後半のアメリカ絵本について学ぶ。
	【事前学修】	モーリス・センダックやレオ・レオニについて調べておく。（２時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 10 回	日本の絵本の歴史　戦後を中心にして（2000年代まで）
	【学修内容】	日本の絵本が戦後どのように発展を遂げたかを絵本を紹介しながら、その歴史をたどる。
	【事前学修】	自分が親しんできた日本の絵本の奥付を見て、何年にどの出版社によって刊行されたのか確認しておく。（２時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 11 回	絵本創作の現場から－絵本作家のDVD鑑賞①
	【学修内容】	世界中の子どもたちに愛されてきたブルーナの絵本の魅力と、物語に込めたメッセージを探る。
	【事前学修】	ブルーナの絵本にはどんな作品があるか調べておく。（2時間）
	【事後学修】	DVDをとおして学んだこと踏まえながら、作品を読む。（2時間）
	第 12 回	物語絵本①　子どもたちにとって面白い絵本ってどんな絵本
	【学修内容】	長く子どもたちに愛されてきたロングセラー絵本をとおして子どもが物語のどんな要素にひきつけられるのか学ぶ。
	【事前学修】	子どもの頃、あるいは実習で読んだ絵本などをとおして、何が子どもの心を引きつけるのか考えておく。（２時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 13 回	物語絵本②　豊かな心の成長と物語絵本
	【学修内容】	子どもの心の成長と物語絵本との関係について学ぶ。
	【事前学修】	物語絵本が子どもの心に何をもたらしてくれるか考えてみる。（２時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 14 回	物語絵本③　絵本のなかの多様性
	【学修内容】	多様性という視点で絵本を読むことで、自分らしく生きることの価値がどのように描かれているかについて学ぶ。
	【事前学修】	多様性をテーマにした絵本にはどのようなものがあるか調べておく。（2時間）
	【事後学修】	授業で学んだ内容について、実際に絵本をみながら確認する。（２時間）
	第 15 回	絵本創作の現場から－絵本作家のDVD鑑賞②
	【学修内容】	絵本作家の創作に向かう姿勢について知る。DVD鑑賞後は読み聞かせの技術と表現の基本について学ぶ。
	【事前学修】	荒井良二の絵本作品にはどんなものがあるか調べておく。（2時間）
	【事後学修】	読み聞かせの基本について学んだことを押さえながら実際に声にだして読んでみる。（2時間）

評　価　方　法	レポート（50%）、平常点（50%）平素の受講態度等を加味する。

教　　科　　書	特になし。プリントを作成して配付する。

参　　考　　書 参 考 資 料 等	授業の中で適宜紹介する。

備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
音楽総合表現	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	下司貴大
科目コード　HgaaB20327							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	保育者になる自覚を持ち、楽しみながらも規律を守り、積極的に学ぶ意識を持って受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から６単位以上を修得すること。
授業の目的・概要	豊かな音楽表現のためには、幅広い音楽の素養が必要である。これまでに身に付けてきた演奏技術や伴奏法をより確かなものとするために、基礎的な音楽理論やソルフェージュを学ぶ。また、さまざまな音楽に触れ、背景を知ることで保育者としての音楽的教養を身に付ける。 音楽表現の楽しさを子どもに伝えるには、保育者自身がそれを身をもって体験し、その楽しさや魅力を実感することが重要である。わらべうたや唱歌等の子どもの歌を修得し、子どもの遊びに即した歌遊び、リズム遊びとその発展例を実践することで、音楽の楽しさを実感する。さらに、平易な素材から簡単な編曲も取り入れ、幅広い音楽表現のあり方を考えていく。
到達目標	①　基礎的な音楽理論を理解し、コードネームによる伴奏ができる。 ②　わらべうた、唱歌等の子どもの歌を修得し、歌あそびやリズムあそび等、音楽を使った遊びのレパートリーを広げる。 ③　基本的なリズム演奏から応用としてのリズムアンサンブルを学ぶ。また、リズム楽器を使用した簡易的な編曲と、それを用いた合奏指導を実践する。
授業の進め方	必要に応じプリントを配付しながら進めていく。 第９回までは授業を前半と後半に分け、前半で理論を、後半ではリズムに関することを実践しながら学んでいく。第10回からはリトミックを体験しながら学んでいく。

	理論的内容とその実践	リズムとその実践
第1回	オリエンテーション・楽典	①基礎リズム
【学修内容】	基本的な楽典の知識を学ぶ。	2拍子の基礎リズムを学ぶ。
【事前学修】	本講義の内容についてよく理解し、目標や疑問点を書き出し整理しておく。（理論・リズム共通）（2時間）	
【事後学修】	講義内で触れた楽典の内容について復習する。（１時間）	基礎リズムの自主練習。（1時間）
第2回	伴奏法①　　コードの基礎知識	②基礎リズムによるアンサンブル
【学修内容】	音階と調性・ハ長調の和音	①で学んだ基礎リズムを用いたアンサンブル
【事前学修】	「コード」について自分なりに調べておく。（1時間）	基礎リズムを打てるよう自主練習しておく。（1時間）
【事後学修】	配付資料を見直し、復習する。（１時間）	課題に出たリズムを打てるよう練習する。（1時間）
第3回	伴奏法②　　Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ／ハ長調	③様々なリズムによるアンサンブル
【学修内容】	ハ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音・和音の転回形	①で学んだ基礎リズムを用いた、さらに複雑なアンサブル
【事前学修】	前回の配付資料をよく読んでおく。（1時間）	前回の課題のリズムを確実に打てるよう練習する。（1時間）
【事後学修】	Ⅰ・Ⅳ・Ⅴの和音について実際にピアノで弾いて確認する。（1時間）	本時で課題に出たリズムを打てるよう練習する。（1時間）
第4回	伴奏法③　　ト長調	④世界のリズム／ボディ・パーカッション①
【学修内容】	ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音・コードを用いた伴奏	世界の様々なリズムについて学ぶ。
【事前学修】	ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音の予習（和音構成音・展開形）（1時間）	前回の課題のリズムを確実に打てるよう練習する。（1時間）
【事後学修】	ト長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音を実際にピアノで弾いて確認する。（1時間）	課題に出たボディ・パーカッションの練習。（1時間）
第5回	伴奏法④　　へ長調	ボディ・パーカッション②
【学修内容】	へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音・コードを用いた伴奏	グループごとにボディ・パーカッションの練習をする。
【事前学修】	へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音の予習（和音構成音・展開形）（1時間）	課題に出たボディ・パーカッションの練習。（1時間）
【事後学修】	へ長調のⅠ・Ⅳ・Ⅴの和音を実際にピアノで弾いて確認する。（1時間）	グループごとの練習を踏まえ、発表に向けてさらに練習する。（1時間）

授　業　計　画	第6回	伴奏法⑤　　その他の調／移調	ボディ・パーカッション③発表
	【学修内容】	調性の判定とそれによる伴奏の方法、移調について	グループ発表
	【事前学修】	ハ・ト・ヘ各長調の和音についてしっかり把握しておく。（1時間）	発表に向けて練習を重ねる。（1時間）
	【事後学修】	課題の練習（各調での伴奏、移調奏）（1時間）	アンサンブルをする上での留意点などをまとめる。（1時間）
	第7回	伴奏法⑥　　小テスト	簡易編曲法①
	【学修内容】	コード、調性判定、伴奏法についてのまとめ	リズム楽器を用いた簡易的な編曲について学ぶ。
	【事前学修】	調性判定と各調のコード（和音）についてまとめておく。（1時間）	これまでに学んだ楽典、リズムについて復習する。（1時間）
	【事後学修】	授業内で詳細に扱わなかった調についても実際に弾いて確認しておく。（1時間）	課題となった曲にふさわしいリズムや組み合わせを検討する。（1時間）
	第8回	日本の子どもの歌①	簡易編曲法②
	【学修内容】	日本の子どもの歌の成り立ちについて学ぶ。	グループで簡易編曲を実践し指導案を考える。
	【事前学修】	子どもの歌の分類について調べる。（プリント課題）（1時間）	課題曲に合う編曲を考えておく。（1時間）
	【事後学修】	配付資料をよく読みまとめる。（1時間）	実際に指導するにあたりどのように進めるか具体的に検討する。（1時間）
	第9回	日本の子どもの歌②	簡易編曲法③　指導実践
	【学修内容】	年齢による歌唱教材の選択や留意点について学ぶ。	グループでの指導実践
	【事前学修】	各年齢で季節や行事ごとの歌唱教材にどのようなものがあるか調べておく。（1時間）	楽器の使い方やリズムのアンサンブルについて確認しておく。（1時間）
	【事後学修】	配付資料をよく読みレポート課題をまとめる。（1時間）	発表を踏まえて、編曲や合奏指導についてまとめる。（1時間）
	第10回	リトミック①	
	【学修内容】	リトミックの概要について学ぶ／即時反応の体験・演奏法	
	【事前学修】	リトミックとはどういうものであるか自分なりに調べておく。（2時間）	
	【事後学修】	即時反応の演奏法について学んだことを実際にピアノで弾いてみる。（2時間）	
	第11回	リトミック②	
	【学修内容】	年齢ごとの発達に即したリトミック	
	【事前学修】	配付資料を読み、幼児の発達について把握する。また、それに即したリトミックについて調べる。（2時間）	
	【事後学修】	グループ発表の準備として、授業内容を踏まえ、何歳向けの計画を立てるか検討する。（2時間）	
	第12回	リトミック③	
	【学修内容】	道具を用いたリトミック	
	【事前学修】	リトミックに用いられる「道具」についてどのようなもの・使い方があるか調べる。（2時間）	
	【事後学修】	グループ発表の準備として、道具の使用について検討する。（2時間）	
	第13回	リトミック④　　指導実践	
	【学修内容】	グループでの指導実践に向けての計画・練習	
	【事前学修】	リトミック①～③で学んだことを元にどのような計画を提案するか考えておく。（2時間）	
	【事後学修】	グループでの話し合いを元に内容を深め発表の準備をする。（2時間）	
	第14回	リトミック⑤　　指導実践	
	【学修内容】	グループによる指導実践	
	【事前学修】	グループでの話し合いを元に、発表の流れや各自の役割を理解し把握しておく。（2時間）	
	【事後学修】	発表を終えて、反省点や改善点、学んだことなどをまとめる。（2時間）	
	第15回	まとめ	
	【学修内容】	第1回から第14回までの内容を振り返り、音楽をどのように保育現場に活かしていくか考える。	
	【事前学修】	第1回からの配付資料やノートなどを振り返り、内容を復習する。（2時間）	
	【事後学修】	全15回の授業の中で新たに得たことや今後も努力が必要と思われることをまとめておく。（2時間）	

評　価　方　法	個人・グループでの発表（50%）、提出物・小テスト（30%）、平常点（20%） 授業への取り組み等参加姿勢を重視する。
教　　科　　書	こどものうた200（チャイルド本社）、続こどものうた200（チャイルド本社） 必要に応じプリント資料を配付する。
参　考　書 参 考 資 料 等	適宜紹介する。
備　　考	提出物の期限厳守。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
図画工作	演習	2	選択	選択必修	選択	2年・後期	加　藤　貴　子
科目コード　HgaaB20328							担当形態：単独

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育士、幼稚園教諭や保育教諭に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 ハサミ、カッター、ホチキス、ヤマトのり又はフエキのり、木工ボンド（紙・布・木用）、両面テープ（1㎝幅）セロテープ（1㎝幅）は道具箱にまとめ毎時間持参すること。 準備や後片付け等も学習の一つであることを意識できるようにする。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から６単位以上を修得すること。
授業の目的・概要	本講義では、幼児の表現、造形活動に必要な知識を学び、幼児一人ひとりの創造力を支える力を養うことを目的とする。また、幼児のための造形環境を保育者としての立場から創造することをテーマに制作を行い、作品の展示方法を研究する。
到達目標	①　季節や行事等、目的に即した造形制作を通じて幼児期の子どもを主体とした造形環境の必要性を理解し、そのために必要な知識・技能を学ぶ。 ②　幼児期の発達を理解するとともに低年齢児との描画・造形活動への取組み方を学ぶ。
授業の進め方	・幼児の造形活動が総合的な活動であることを基本として、保育実践に活かすことができる保育者のかかわりや、造形活動への動機づけなどを理解できるように、講義と実技を行う。 ・課題に対して企画シートを作成し、計画的に制作する。

第　1　回　　オリエンテーション
【学修内容】　子どもと造形表現
【事前学修】　幼児教育の基本や資質・能力の３つの柱などを調べ、表現の視点からまとめておく。（２時間）
【事後学修】　次回の内容を調べてまとめ、次回の制作の準備をする。（２時間）
第　2　回　　伝える
【学修内容】　ポスター制作　伝える基礎基本
【事前学修】　園で掲示するポスターについて調べ、制作のイメージをまとめておく。（２時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（２時間）
第　3　回　　伝える
【学修内容】　ポスター制作　伝える工夫を生かしてつくる
【事前学修】　園で掲示するポスターについて、制作に必要な情報を収集しておく。（２時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（２時間）
第　4　回　　知らせる
【学修内容】　立体表示による伝言
【事前学修】　園で掲示する表示について、制作のイメージをまとめておく。（２時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（２時間）
第　5　回　　知らせる
【学修内容】　立体表示による造形制作
【事前学修】　園で掲示する表示について、制作に必要な情報を収集しておく。（２時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（２時間）
第　6　回　　つくる
【学修内容】　ライトアップした装飾作品の理解と制作計画
【事前学修】　教科書P188～P189を読み、内容の理解を深めておく。（2時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントをまとめ企画書を見直す。（２時間）
第　7　回　　つくる
【学修内容】　ライトアップした作品制作
【事前学修】　情報機器などを用いて制作に必要な情報をまとめ、イメージをまとめておく。（２時間）
【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントをまとめ企画書を見直す。（２時間）

授　業　計　画	第 8 回　　つくる 【学修内容】　ライトアップした装飾の工夫交流 【事前学修】　作品の効果的な展示方法などを調べまとめておく。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第 9 回　　かざる 【学修内容】　図形を活用した装飾の基礎基本 【事前学修】　内容に関して調べ、制作のイメージをまとめておく。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第10 回　　かざる 【学修内容】　図形を活用した装飾の工夫 【事前学修】　内容に関して調べ、制作のイメージをまとめておく。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第 11 回　　手作り絵本 【学修内容】　絵本制作の基本 【事前学修】　教科書P196～P199を読み、理解を深めておく。（2時間） 【事後学修】　今後の計画を立て次回の制作の準備をする。（2時間） 第12 回　　手作り絵本 【学修内容】　オリジナル絵本企画書作成 【事前学修】　配付された資料を読み、制作の計画を企画書にまとめ準備をする。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第13 回　　手作り絵本 【学修内容】　オリジナル絵本の制作 【事前学修】　配付された資料を読み、制作の企画書をまとめ準備をする。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第14 回　　手作り絵本 【学修内容】　オリジナル絵本の制作 【事前学修】　配付された資料を読み、制作の企画書をまとめ準備をする。（2時間） 【事後学修】　配付された資料で授業内容を振り返り、実践で役立つポイントを理解する。（2時間） 第15 回　　手作り絵本 【学修内容】　オリジナル絵本の完成と発表交流 【事前学修】　保育現場での実践や活用の仕方について調べておく。（2時間） 【事後学修】　保育現場での展開を予想し、理解を深める。（2時間）
評　価　方　法	作品・レポート等（80%）、平常点（20%）、平素の受講態度等を加味する。
教　　科　　書	幼児造形の基礎（樋口一成著、萌文書林）
参　　考　　書 参 考 資 料 等	新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞表現　（無藤隆監修、浜口順子編者代表　萌文書林）
備　　考	提出物の期限厳守。 実務経験のある教員：札幌市立幼稚園における幼児教育に関する実務経験を活かした授業を行う。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
保育実践研究	演習	2	選択	選択必修		2年・前期	保育科教員
科目コード　HgaZB10329							担当形態：複数

	科目に含める必要事項

受講する上での注意事項	将来、保育関係又は教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。 保育士資格取得のためには、音楽Ⅱ、幼児造形Ⅱ、保育方法論、教育・保育相談、教育・保育社会学、児童文学、音楽総合表現、図画工作、保育実践研究から6単位以上を修得すること。
授業の目的・概要	保育者として保育現場で実践する上での、具体的な指導法を総合的に深める。 保育を展開していく上で指導計画は、必要不可欠であり大きな意味を持つが、常に計画通りに進むわけではない。子どもの状態に合わせた柔軟な考え方、臨機応変に対応して行ける実践力を養成する。 指導計画の立案と模擬実践を中心に授業を進める。実際に子どもたちの前に立っているつもりで下準備をしっかり整え、意欲的に取り組むことが望まれる。
到達目標	①　指導計画の意味を理解し、明確なねらいの立て方、適切な記載表現等を身に付ける。 ②　実勢を検討、評価することにより、創意工夫、柔軟な考え方を身に付ける。 ③　保育現場で活用できる身体的な技法、実践力を身に付ける。
授業の進め方	個人毎に指導計画の立案と模擬実践を行う。その後クラス全体の振り返りを行う。

第　1　回　　オリエンテーション／指導計画の書き方
【学修内容】　シラバスに沿って授業概要、趣旨、評価方法の説明をする。指導計画の意義について学ぶ。
【事前学修】　授業前にシラバスに目を通しておく。（2時間）
【事後学修】　シラバスや授業内で配付したプリント資料を参照して本授業の概要と目的について理解を深める。（2時間）

第　2　回　　部分実習実践
【学修内容】　行事を楽しむ：部分実習を想定し模擬実践を行う。
【事前学修】　子どもの活動（遊び、折り紙、絵本など）について具体的に調べておく。（2時間）
【事後学修】　授業内で取り上げた子どもの活動について必要な保育者の援助・配慮事項を考える。（2時間）

第　3　回　　部分実習実践
【学修内容】　保健指導～歯科検診・歯磨き指導～：指導計画の書き方を学ぶ。
【事前学修】　前回の授業内で取り上げた活動について予想される子どもの活動について考える。（2時間）
【事後学修】　授業内で作成した指導計画について実際に行うことを想定して理解を深める。（2時間）

第　4　回　　部分実習実践
【学修内容】　年齢別の指導計画　　0.1.2歳児
【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間）
【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間）

第　5　回　　部分実習実践
【学修内容】　指導計画の実践交流
【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間）
【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間）

第　6　回　　部分実習実践
【学修内容】　年齢別の指導計画　　3歳児
【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間）
【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間）

第　7　回　　部分実習実践
【学修内容】　指導計画の実践交流
【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間）
【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間）

授　業　計　画	第　8　回　　部分実習実践 【学修内容】　年齢別の指導計画　　4歳児 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第　9　回　　部分実習実践 【学修内容】　指導計画の実践交流 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第 10 回　　部分実習実践 【学修内容】　年齢別の指導計画　　5歳児 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第 11 回　　部分実習実践 【学修内容】　指導計画の実践交流 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第 12 回　　部分実習実践 【学修内容】　年齢別の指導計画　　異年齢 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第 13 回　　部分実習実践 【学修内容】　指導計画の実践交流 【事前学修】　子どもの発達に合わせた保育内容を考える。（2時間） 【事後学修】　授業内で取り上げた保育活動について指導計画を立案する。（2時間） 第 14 回　　幼小の接続について 【学修内容】　幼児教育の現場での実践例をもとに保育所、幼稚園と小学校教育の違いと繋がりについて学ぶ。 【事前学修】　自らの小学校での経験について振り返りをしておく。（２時間） 【事後学修】　今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間） 第 15 回　　まとめ 【学修内容】　計画性のある保育の必要性と実践交流の振り返り 【事前学修】　立案した指導計画についての見直しを行う。（２時間） 【事後学修】　今回の授業で学んだ内容を復習しておく。（2時間）
評　価　方　法	模擬実践（50%）、指導計画案（提出状況と内容）（30%）、平常点（20%）
教　　科　　書	使用しない。
参　　考　　書 参 考 資 料 等	保育所保育指針（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	特に記載事項なし。

授業科目名	形態	単位	卒業	保育士	幼稚園	開設年次・開講期	担当教員
教育実習	実習	5	選択	選択	必修	2年・前期	加藤貴子
科目コード　HgaAC30410							担当形態：単独

教育実践に関する科目	科目に含める必要事項
	教育実習（学校体験活動）

受講する上での注意事項	将来、教職に就くことを念頭に置きながら、積極的かつ主体的に受講すること。
授業の目的・概要	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践にかかわることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践並びに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 そのために、本科目は、実習指導と実習（幼稚園）の2つの柱から構成される。 実習指導では、実習生が実習を充実したものにできるように実習前と実習後にガイダンスを行う。実習前には、幼稚園の機能、保育者の役割、幼児教育という営み、指導計画（指導案）の作成方法等、教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる準備を進める。実習後には、教育実習を通して得られた知識と経験を振返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。 実習（幼稚園）では、学内で学んだ知識や技術を実践を通じて理解し、体得していくことを目指す。教育実習は、幼稚園教諭としての基礎的な知識を定着し能力を高めていく重要な機会となる。 学外での実習とそれにかかわる事前・事後指導を修得して、教育実習の単位認定となる。
到達目標	①　幼児との適切なかかわりを通して、その実態や課題を把握する。 ②　指導担当教諭の保育を観察し、事実に即して記録する。 ③　実習園の教育方針や特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解する。 ④　担任の役割と職務内容を理解し、補助的な役割を担う。 ⑤　幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、実践する。 ⑥　保育に必要な基礎的技術を身に付け、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用する。
授業の進め方	学外幼稚園実習の事前・事後指導、４週間の学外実習を行う。 実習を通して、幼稚園教育とは何か、幼稚園の役割等を理解する。日誌を日々書く中で、記録の重要性を理解し、子どもを観察する力を養う。
	第　１　回　　教育実習の意義と概要 【学修内容】　教育実習の目的と必要性について 【事前学修】　教科書第１章と第７章を読み、内容を理解しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等を読み、振り返りをまとめる。（0.5時間） 第　２　回　　実習の教育目標、１日の流れ、行事等 【学修内容】　附属認定こども園を例に挙げて 【事前学修】　実習の教育目標について考えをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等から、学んだことを振り返りまとめる。（0.5時間） 第　３　回　　実習に臨む態度、身だしなみ、責任等 【学修内容】　実習生としての自覚と行動の理解 【事前学修】　教科書第１章の実習前のポイント「マナーと服装」を熟読しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等から、学んだことを振り返りまとめる。（0.5時間） 第　４　回　　実習に関する書類等の作成と整理 【学修内容】　実習調書の作成と実習日誌の準備 【事前学修】　教科書第４章を通読しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等から、学んだことを振り返り、まとめる。（0.5時間） 第　５　回　　幼児の理解① 【学修内容】　３、４歳児の発達過程について 【事前学修】　３、４歳児の発達過程について事前に調べ、理解を深めておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容をふまえ３歳児、４歳児の発達に合った遊びを調べまとめておく。（0.5時間） 第　６　回　　幼児の理解② 【学修内容】　５歳児の発達過程について 【事前学修】　５歳児の発達過程について事前に調べ、理解を深めておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容をふまえ５歳児の発達に合った遊びを調べ、まとめておく。（0.5時間） 第　７　回　　実習記録の必要性① 【学修内容】　日誌の記述方法について 【事前学修】　教科書第４章実習の記録のポイントを熟読しておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等から学んだことを振り返り、まとめる。（0.5時間）

授　業　計　画	第 8 回　　実習記録の必要性② 【学修内容】　指導案の作成について１（記述における注意点） 【事前学修】　指導案の書きかたの基本を調べてまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　配付資料等から学んだことを振り返り、まとめる。（0.5時間） 第 9 回　　実習記録の必要性③ 【学修内容】　指導案の作成について２（教材研究・計画） 【事前学修】　各年齢発達に合わせた指導案について調べ、ねらい・内容等について理解を深めておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容を踏まえ、部分実習指導案の書きかたを理解する。（0.5時間） 第10 回　　実習記録の必要性④ 【学修内容】　指導案の作成について３（指導案の完成・見直し） 【事前学修】　年齢発達に合った部分実習指導案であるかを見直し、理解を深めておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容を踏まえ、部分実習指導案の書きかたを理解する。（0.5時間） 第 11 回　　幼稚園実習へ向けて 【学修内容】　先輩の体験談を聞く 【事前学修】　質問事項などを考え、まとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容をふまえ、感想等をまとめる。（0.5時間） 第12 回　　幼稚園実習の実際 【学修内容】　現場の幼稚園教諭よりの幼稚園の実際を知る 【事前学修】　教科書第７章を通読しておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容を踏まえ実習の事前準備の内容を整理する。（0.5時間） 第13 回　　直前指導 【学修内容】　教育実習に向けての確認事項 【事前学修】　教科書第３章を通読し、実習後のイメージをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　これまでの授業内容をまとめ、実習の事前準備を確認する。（0.5時間） ●４週間の学外幼稚園実習 ＊実習１日につき 【事前学修】　その日の実習目標を定め、実習に関わる諸準備を行う。（0.5時間） 【事後学修】　実習日誌を整理し、実習で学んだ知識・技術等を復習しておく。（0.5時間） 第14 回　　教育実習の振返り 【学修内容】　実習報告書の作成 【事前学修】　実習の振り返りをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容をふまえ、報告書の作成を行う。（0.5時間） 第15 回　　まとめ 【学修内容】　教育実習の振返り、１年間のまとめの記入 【事前学修】　実習の振り返りをまとめておく。（0.5時間） 【事後学修】　授業内容をふまえ、今後の保育実践に向けて学んだことを整理する。（0.5時間）
評　価　方　法	学外幼稚園実習評価（80%）、実習指導：提出物、報告書、平常点（20%）。
教　　科　　書	事前・事後学習のポイントを理解！保育所・施設・幼稚園実習ステップブック（山本美貴子・松山洋平編、みらい）
参　考　書 参考資料等	保育所保育指針解説（厚生労働省編、フレーベル館） 幼稚園教育要領解説（文部科学省編、フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館）
備　　考	提出物の期限厳守。